

令和元年度 林野庁委託事業 「森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査検討事業」報告書 (参考資料)「森林サービス産業」先進事例集

INDEX

I. 受入地域の事例（健康分野／自治体）

1. 長野県信濃町（森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入）
2. 山形県上山市（地域住民の健康づくりから企業の健康経営を支える「クアオルト健康ウォーキング」）
3. 長野県小海町（「Re・Designセラピー」による企業の健康経営サポート）

II. 受入地域の事例（健康分野／民間事業者）

4. 山梨県山梨市「保健農園ホテルフフ山梨」（遊休施設から森林・農園を活用した保養リゾートを創出）
5. 静岡県富士宮市「日月倶楽部・富士山静養園」（医師が設立した自然体感型の統合医療拠点）
6. 千葉県長柄町「Sport & Do Resort リソルの森」（健康増進施設をコンセプトにした体験型の森のスパリゾート）

III. 受入地域の事例（公民連携）

7. 静岡県沼津市「泊まれる公園 INN THE PARK」（旧青少年教育施設の公民連携のリノベーション）
8. 福井県池田町「Tree Picnic Adventure IKEDA」（町立キャンプ場のリニューアルで多様なアクティビティ創出）
9. 福岡県糸島市「フォレストアドベンチャー・糸島」（フォレストアドベンチャー事業を軸とした森林公園再生）

IV. 受入地域の事例（森林所有者等による新たな利用開拓）

10. 神奈川県小田原市「(株)T-FORESTRY」（多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営）
11. 静岡県富士宮市「ふもとっばら」（キャンプ場を核にした森林活用等と一体となった林業経営）
12. 長野県茅野市「東急リゾートタウン蓼科」
（新たな森林と共生する別荘地づくりと、森と暮らすライフスタイル「もりぐらし」を提案）

V. 企業等の取組事例（健康分野）

13. 「TDKラムダ」（早期離職対策等に寄与する社員研修等の実施）
14. 「トッパングループ健康保険組合」（加入者向けの情報提供・福利厚生補助・社員研修の実施）
15. 太陽生命保険（「クアオルト健康ウォーキング」を活用した企業の健康経営促進・ヘルスケア産業創出）

所在地：長野県上水内郡信濃町大字大井2742-2041
 実施者：しなの町Woods-Life Community、信濃町商工観光・癒しの森@係
 連絡先：(TEL)026-255-5925 (mail)shinanomachi.wic@gmail.com
 URL：http://iyashinomori.main.jp/

1 森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入(長野県信濃町)

- 長野県信濃町では、合併しないまちづくりを選択する中で、地域グループが主体となって「癒しの森」事業を提案。
- 町独自で「森林メディカルトレーナー」と「癒しの森の宿」の育成・認定等を行い、地域の民間のガイドと宿泊施設を主体化。
- 事業化段階の初動期には地域住民向けの健康講座を通して体験プログラムの上質化・ガイドのスキルアップを図り、その後、企業との協定締結を促進し、社員研修・福利厚生等で年間4,000泊を超える需要を創出(現在では35の企業等と協定を締結)。

取組の経緯

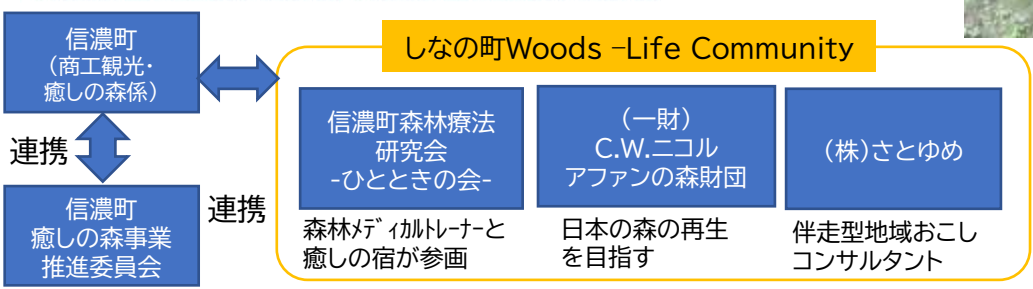
- 信濃町は平成の大合併をしない選択をする中で、町民有志が自立した地域づくりに向けた取組を開始。2001年に町民有志による地域おこしグループ「トマトの会」を発足。
- 長野県が「エコメディカル&ヒーリングビレッジ事業」を始める際、県に働きかけ、信濃町で事業を実施(2003年~3年間)。
- 2003年「癒しの森事業推進委員会」を発足。
- 2003年11月から「森林メディカルトレーナー養成講座」を開講。2019年までに180人が認定を受けた。
- 森林セラピー基地認定制度発足、2006年に第1期の認定取得。独自の効果検証実験や癒しのメニュー作り、企業へのアプローチなどにより需要を創出。

具体的なプログラム・メニュー

- 森での免疫療法と、信濃町独自の療法を組み合わせ、森林の癒し効果を高めるプログラムを提供。利用者の希望に応じたオーダーメイドも受け付ける。食事は地元食材を使ったマクロビ弁当等を提供。「癒しの森@の宿」では、ハーブティや新鮮な野菜料理を楽しむ。宿泊:11,000~19,800円/泊、森林セラピーガイド:15,000円/半日
- 企業向けには、森林セラピープログラムの他、コミュニケーションキャンプや登山、座禅等のメニューを提供。



実施体制・事業内容



実績(2019年度)

- 森林メディカルトレーナー:講座受講・認定数180人、登録数:16名
- 癒しの宿認定数:延べ30軒(2019年度現在14軒)
- 提携企業数:35社
- 「癒しの森の宿」宿泊者数:4,000人/年、森林セラピー利用者:6,000人/年
- 地域への経済波及効果:
直接効果約2億1,890万円/5年間・総合効果3億972万円/5年間

森林メディカルトレーナー養成講座 「癒しの森」窓口、顧客受入業務

I. 受入地域の事例(健康分野/自治体)

1 森林セラピーを核にした「癒しの森事業」の展開と協定締結による企業誘致・受入

◎ 特徴1/地域内の担い手を養成する仕組みづくり

① 森林メディカルトレーナーの育成・認定

- 信濃町では、独自でガイド資格の養成講座を開催。
- 全講座(24コマ・各90分)の受講と課題等提出により資格認定。
- 参加者に対して、森林療法をはじめとして多様な免疫療法を提供したり、健康チェック等を行うことで五感を解放させ、より森林の癒し効果が得られるように手伝う役割。
- 最初は住民向けの健康講座や、ガイドのもとで補助員として関わることでOJTをして、スキルアップやプログラムの改良を行う。
- ガイドとして活動するには、毎年レベルアップ講座を受講する等の条件を満たしたうえで、申請・登録が必要。

「森林メディカルトレーナー」「癒しの森の宿」養成講座内容(2019年度)

講義名	コマ数
A.癒しの森事業概要	
信濃町について	1
癒しの森事業概論	1
森林メディカルトレーナーの職務	7
森林療法研究会について	1
癒しの森の現状とこれから	2
B.森林機能学(森林が持つ機能・効果)	
C.安全管理講習(森林での安全管理)	
D.アロマセラピー&植物療法	
アロマセラピー概論	2
薬草について	4
ハーブについて	1
E.カウンセリング・ホスピタリティ	
メンタルヘルスと傾聴	3
癒しの森の宿のサービス	1
F.運動療法(ノルディックウォーキング実践講座)	
G.実技実地講習(癒しの森コース実地研修)	
合計	24

② 癒しの森の宿の認定

- 以下の条件を満たす宿を「癒しの森の宿」として認定している。

- 森林メディカルトレーナー養成講座の受講
- 信濃町観光協会会員
- 以下のサービス提供
 - 香りの演出
 - 静かな空間
 - 入浴法の案内
 - より良い睡眠の案内
 - 食事の工夫
 - 飲み物の工夫(ウェルカムティーや地酒・地ビール等の提供等)
 - 食材の利用・工夫(地元産食材の活用)
 - 新鮮で健康的なメニュー(薬膳料理の活用等)

薬草茶サービス アロマセラピー



健康的な食事 森の中の癒しの空間



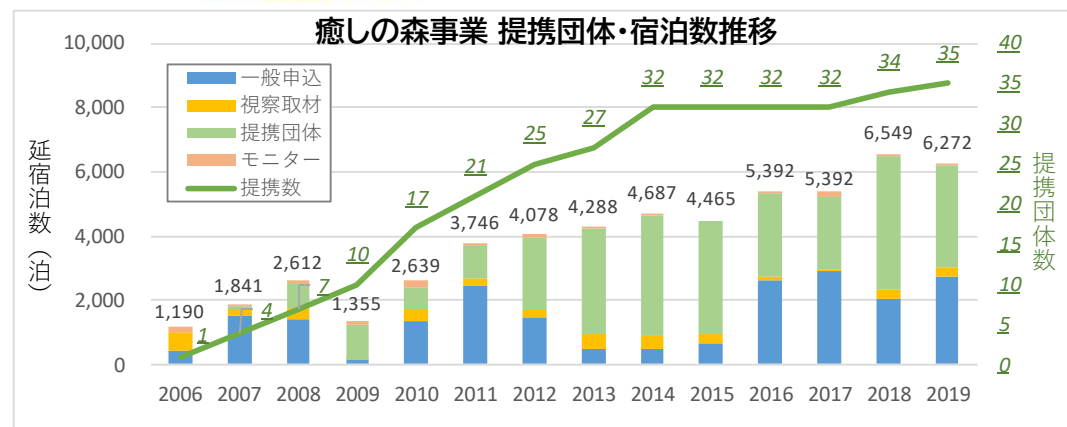
◎ 特徴2/誘客を促進する仕組みづくり

○ 企業・健康保険組合との協定締結を通じた誘客促進

- 信濃町では、企業・健康保険組合との協定締結を通じた誘客促進する仕組みづくりを実施(35企業等と協定締結)



- 「心と身体への健康づくり」、「保養協定等」、「社員研修等」、「社会貢献等」、「社員旅行等」の5つの領域を想定



写真・図表出典：信州信濃町癒しの森®HP及び信濃町業務資料

2 地域住民の健康づくりから企業の健康経営を支える 「クアオルト健康ウォーキング」(山形県上山市)

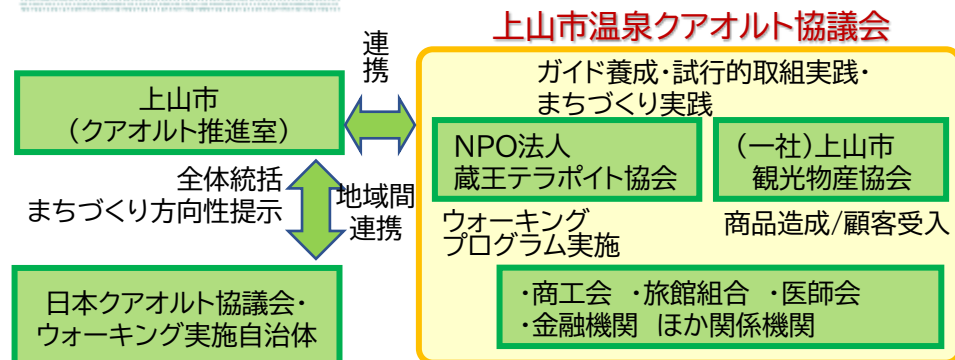
所在地：山形県上山市河崎1丁目1-10 上山市市政戦略課クアオルト推進室
 実施者：上山市、上山市温泉クアオルト協議会
 連絡先：(TEL)023-672-1111(内線222) (mail)kaminoyama.kurort@gmail.com
 URL：<https://www.city.kaminoyama.yamagata.jp/site/kurort/>

- 開湯560年の歴史ある温泉と自然資源を生かし、ドイツの「クアオルト」の理念に基づき、市民の健康増進と交流人口拡大による地域活性化を目指し、“心と体がうるおう”まちづくり「上山型温泉クアオルト事業」に官民一体で取り組んでいる。
- 年末年始を除き毎日開催される「住民向け健康ウォーキング」等で、ガイドスキルやプログラムのブラッシュアップを行い、現在は、豊かな地域資源を結び付け、ウォーキングをはじめとした運動・栄養・休養など、健康づくりにつながる多様なプログラムにより、企業との協定締結による社員研修・宿泊型新保健指導等を受け入れている。

取組の経緯

- 2008年 市民一人当たりの医療費・高齢化率の高さや、年間宿泊数の減少等の課題に対応するため、全国に先駆けて「上山型温泉クアオルト(ドイツ語で健康保養地の意味)事業」を開始。上山市温泉保養地まちづくり協議会(現：上山市温泉クアオルト協議会)設立。内閣府「地方の元気再生事業」の採択を受け、ウォーキングコース整備、エビデンス調査、専門ガイド養成等を行う。
- 2010年 ウォーキングガイド組織「蔵王テラポイント協会」設立。
- 2011年 毎日ウォーキング他、各ウォーキングプログラム開始。
- 2013年 上山型温泉クアオルト構想策定。
- 2015年 宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)プログラムを開始。(東北地方唯一)
- 2017-18年 首都圏企業3社と包括的連携協定を締結。
- 2018年 市内5事業者が「ヘルスツーリズム認証」取得。
- 2019年 「蔵王テラポイント協会」NPO法人化。

実施体制



具体的なプログラム・メニュー

【地域側の条件整備】

◆「ウォーキング認定コース」整備



- ミュンヘン大学認定の5か所8コースの他、まちなかコース等を整備

◆「クアオルト・テラポイント」養成

- 気候性地形療法の専門知識・技術を有するガイドを毎年養成

◆クアオルト膳・弁当



- 地元食材を生かし、栄養のバランスやカロリー・塩分に配慮したメニュー(700円~1,650円)※旅館別途。

【提供しているプログラム】

◆気候性地形療法ウォーキング (クアオルト健康ウォーキング)

ドイツの気候性地形療法ウォーキングは、認定コースを治療のために設定された負荷で歩くもので、特に心臓・循環器系のトレーニングに用いられる。上山市ではこれにならない以下のプログラムを提供：



- 専門ガイドの指導のもと、年末年始を除く360日開催
- 企業や学校等の団体向けも
- 毎日ウォーキング (市民無料、市外1,000円)
- 空色・暮色ウォーキング (観光客向け3,000円)

◆宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)



- 健診機関・医師会・旅館組合等と連携して開発
- 2015~2019年まで38ツアーに都市部の企業等を中心に約360人が参加

実績(2019年度)

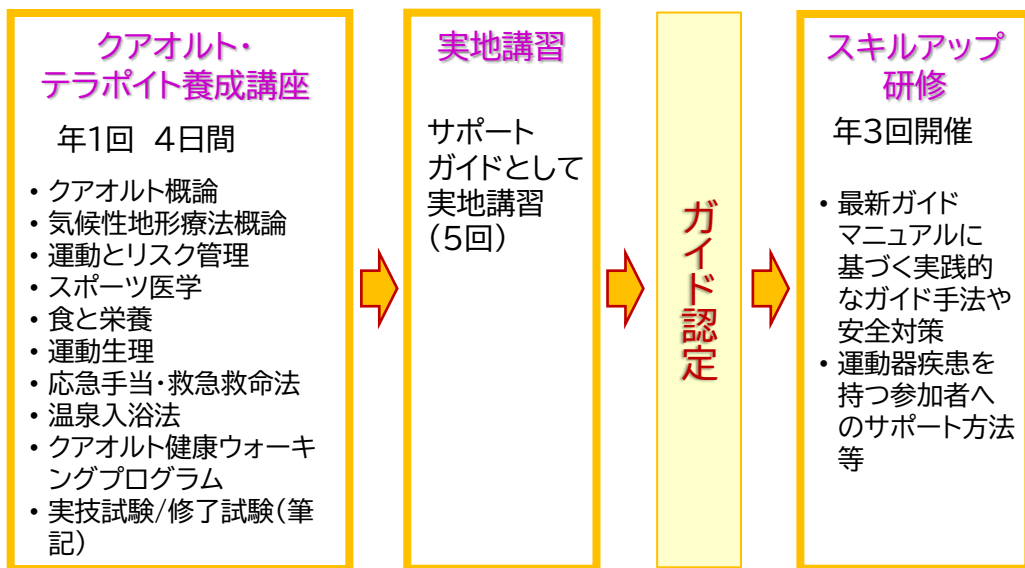
- 毎日ウォーキング参加者：4,361人(うち、市民2,836人)
- 空色・暮色ウォーキング参加者：608人、企業他団体ウォーキング参加者：1,148人
- ヘルスツーリズム目的宿泊者：約900人
- ヘルスツーリズム受入旅館：8軒
- 認定ガイド数：90人(うち市内55人)※2018年度
- 包括連携協定企業数：3社(2019年時点)

1. 受入地域の事例（健康分野／自治体）

2 地域住民の健康づくりから企業の健康経営を支える「クアオルト健康ウォーキング」(山形県上市市)

◎ 特徴1／クアオルト健康ウォーキングの指導者養成

- 認定コースやクアの道®(クアオルト健康ウォーキングコース)を専門的な知識をもって案内できるガイドとして、クアオルト・セラポイント®養成講座(上市市温泉クアオルト協議会・(株)日本クアオルト研究所共催)を毎年1回開催している。
- 2010年にガイド組織「蔵王セラポイント協会」を設立。2011年から毎日ウォーキングなどの住民向け健康プログラムが始動した。以降、住民向けのガイドを行う中でスキルアップ・プログラムの質を向上させてきた。2019年にはガイド組織がNPO法人化している。
- さらに、宿泊事業者とも緊密な連携を取って体制づくりをすることで、2015年から実施のスマート・ライフ・ステイのプログラムや、2017年からの企業との連携・受入ができるまでに至った。



◎ 特徴2／多様なバリエーションの企業協定

- 首都圏企業と『上山型温泉クアオルト(健康保養地)活用包括的連携に関する協定』を締結し、健康経営支援を通じた誘客促進に取り組んでいる。
 - 2016年10月 太陽生命保険株式会社と協定締結
 - 2017年6月 損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社(現 SOMPOひまわり生命保険株式会社)と協定締結
 - 2018年2月 東京海上日動火災保険株式会社と協定締結

① 提携企業社員のクアオルト体験プログラム積極活用



- 社員の福利厚生旅行や宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)ツアーなど、クアオルト体験プログラムを積極的に活用。
- SOMPOひまわり生命(株)では、全社員がクアオルトプログラムを体験する事業を実施した。
※ 上市市が加盟する「日本クアオルト協議会」加盟自治体が対象。

② 提携企業の顧客・代理店・取引法人に対する展開

- 太陽生命保険(株)では、「認知症予防保険」の契約者に対して予防に向けたサービスとして給付金を交付しており、その使途として「クアオルト健康ウォーキング」体験ツアーを提供。
- ツアーは京王観光(株)が販売。
- 全国12か所のクアオルト実践地を対象に実施



3 「Re・Designセラピー」による企業の健康経営サポート （長野県小海町）

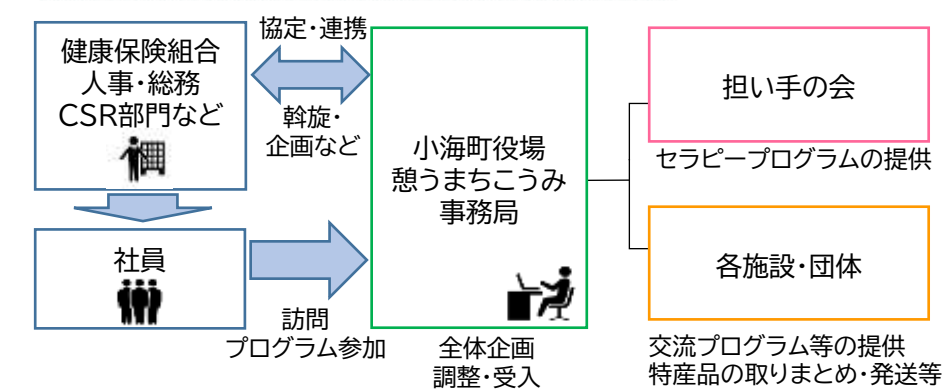
所在地：長野県南佐久郡小海町大字豊里 57番地1
 実施者：小海町役場 憩うまちこうみ事務局（渉外戦略係）
 連絡先：（TEL）0267-92-2525 (mail) ikoumachi-koumi@koumi-town.jp
 URL：<http://ikoumachi-koumi.jp/>

- メンタルヘルスの課題が多いIT企業等を主なターゲットに設定して、企業の健康経営サポートに特化した4つのプログラム等を開発。
- シンポジウム・企業交流会・モニターツアー等を開催して、都市部の企業等への営業活動を通して、8社と協定を締結。
- さらに、空き施設をリニューアルし、協定企業がテレワークやオフサイトミーティングの場として利用できる拠点の整備を推進。

取組の経緯

- 2016年度 小海町まちづくり協議会を設立。コンサルティング会社として(株)さとゆめが参画。話し合いの中で、豊かな自然や美味しい食材、個性豊かな町民などの資源を生かし、働く人のメンタルヘルスケアや企業の健康経営を支援する「憩うまちこうみ」事業が始動。
- 2017年度 企業へのヒアリングや先進地視察等を経て、オリジナルセラピープログラム「Re・Designセラピー」を創出。町民セラピスト育成開始。地域おこし企業人として(株)さとゆめからの派遣人材を受け入れ。
- 2018年度 4つの柱(右記)のメニューを開発、モニターツアーやイベント等を開催、3企業と協定締結
- 2019年度 協定企業の研修等受入開始、人材育成、モニターツアー、企業の活動拠点整備

実施体制・役割分担



図出典：長野県小海町 憩うまちこうみ事務局資料を加筆

具体的なプログラム・メニュー

- 「Re・Designセラピー」は、小海町オリジナルのプログラムであり、地元の食材を使った料理やクラフト、焚火を囲んでのコミュニケーションなどにより、気づきを得て、業務やプライベートの充実にはかしてもらおうもの。
- プログラムは「リラックス」「メディテーション」「コミュニケーション」「デトックス」の4つの柱で構成されている。



大自然の中で五感を開放させ森林療法・免疫療法等を行う
 深呼吸して自分の心と体に向き合いマインドフルネスを実践する
 焚火や大自然を介し交流を深め、チームビルディングを行う
 地元産の新鮮な食材による食事や岩盤浴などによる生活習慣のリセット

写真出典：「憩うまちこうみ」HP及び小海町業務資料

実績

- 提携企業数：8社(2020年3月時点)
- 来訪者数：約240人／年
- 地域への貢献額：約600万円(宿泊費・食事代・セラピー利用料等)
 ※来訪者数売上は2020年度実績で、事務局を通じた利用のみの数値。
- Re・Designセラピスト：30人(2020年3月時点)

1. 受入地域の事例（健康分野／自治体）

3 「Re・Designセラピー」による企業の健康経営サポート(長野県小海町)

◎ 特徴1／体験・宿泊・食事の提供体制を一体的に整備

- Re・Designセラピーは、小海町独自のプログラムであり、サービスを提供する担い手は町が独自講座を開催し養成している。体験・宿泊・食事の提供体制を一体的に整備している点が特徴となっている。
- セラピストは、森林部門、食部門、ヨガ部門の3部門から構成される。養成講座は、初級、中級があり、中級講座を修了した人が初級講座を教えるなど、ガイド人材の充実を図っている。

Re・Designセラピスト各部門の役割

森林部門



森林療法や健康チェック、免疫療法を行い、利用者が自然の中で五感を解放させる手伝いをする。

ヨガ部門



Re・Designの4つの柱の一つ「瞑想(メディテーション)」を手助けする。

食部門



高原野菜など地元食材や郷土料理を生かした食事でリラックスできる環境をサポートする。

Re・Designセラピー食の基準

1. 野菜を1食150g以上入れる
2. ご飯は雑穀や野菜を混ぜ100g
3. 旬の野菜を取り入れる
4. 動物性たんぱく質を多く含む食品は1食80gが目安
5. 油を使った料理は1食2品まで
6. 調味料に気を付ける(味噌・醤油は佐久地域製で、未精製・色素や旨味成分を足していないものを使う、薄味を心がけるなど)
7. お品書きを用意する・食事内容や栄養価の話をする
8. コンceptや料理に合わせた器選びや盛り付けをする

※ 2020年現在、セラピー食を提供できるのはホテル1軒とレストラン・お弁当6軒の計7軒となっている。利用者のニーズに応じ、町内他の各宿泊施設の案内も行っている。

◎ 特徴2／誘客を促進する仕組みづくり

- 中小企業の中でもメンタルヘルス対策に関心が高いと考えられるIT企業をターゲットとして営業活動を行い8社と協定を締結。様々な活動を展開している。

包括的連携協定

2018年度:3社
2019年度:5社

- 人事・総務担当者向けモニターツアー
- 個別企業モニターツアー
- 企業交流会の開催
- 健康経営研究会への参加でPR

社員研修・社内会議・福利厚生・地域交流・特産品販売等



企業がテレワークやオフサイトミーティングに利用できる場として、空き家をリノベーションしたワークスペースを開設(2020年4月運用開始)。



リノベーション作業中



リノベーション後

【協定事例】アルファテックス株式会社

- 2018年 憩うまち協定締結。10月に行われた下期経営方針発表会を、「自然豊かな環境の中で、頭をクリアにして当社の将来についてもディスカッションを行おう」と小海町で開催。
- 以降、町主催のウォーキングイベントへの参加、10年以上勤続者への森林セラピー+今後に向けた自己実現を考える研修を実施している。研修に参加した社員が、家族と一緒に小海町を訪れるケースが多く、町民との交流も深まりつつある。



4 遊休施設から森林・農園を活用した保養リゾートを創出 「保健農園ホテルフフ山梨」(山梨県山梨市)

所在地：山梨市牧丘町倉科7190番地
 実施者：(株) ジャパンEAPシステムズ
 連絡先：(TEL) 0553-35-4422 (mail) info@fufuyamanashi.jp
 URL：https://fufuyamanashi.jp/

- 山梨市保有の遊休施設を医療法人のグループ会社が借り受け、「ココロとカラダを整える」保健農園ホテルとしてリニューアル。
- 心身の健康を保つために必要な6つのアプローチから、医師・専門家監修のもとプログラムを提供・コーディネート。
- 旅行サイト等での予約の他、口コミを通じて企業等団体利用も広がっており、社員研修などに活用されている。

取組の経緯

- 利用している施設は、1992年に山梨市(旧牧丘町)が設置した宿泊施設で、2006年に指定管理者が撤退してから、一時休業、2008年からは市直営で研修などの場として活用していたが、赤字経営が続き廃止が決まっていた。
- 一方、翠会ヘルスケアグループ代表の新貝氏は、自然環境を生かした精神療法「森田療法」の考えのもと、自然のバランスを取り入れて心と体を整えていく医療の実践場所を探していた。
- 森林セラピーソサエティにも携わっていた新貝氏は、「森林セラピー基地」の山梨市が所有するホテルが遊休状態であったことから、借り受けることになった。
- 2012年 地域で専門スキルを有する指導者等の連携体制を構築して、敷地内の森林・農園等も活用した保健リゾートとして保健農園ホテルフフ山梨を開業。

具体的なプログラム・メニュー

- 心身の健康向上・疾病予防の観点から、睡眠リズム、リラクゼーション、コミュニケーション、感覚活用、セラピー食、運動の6つのタイプのプログラムを配置。
- 夕方や朝などに宿泊者全員に常時提供するプログラムと、オーダーメイドで提供するプログラムなど、広くコーディネートしている。
- 1泊2日 17,000円～30,000円等(食事・プログラム込み。長期滞在割引あり)

睡眠リズム



起床・消灯時間の設定・テレビを置かないことでリズムを整える。

食事(セラピー食)



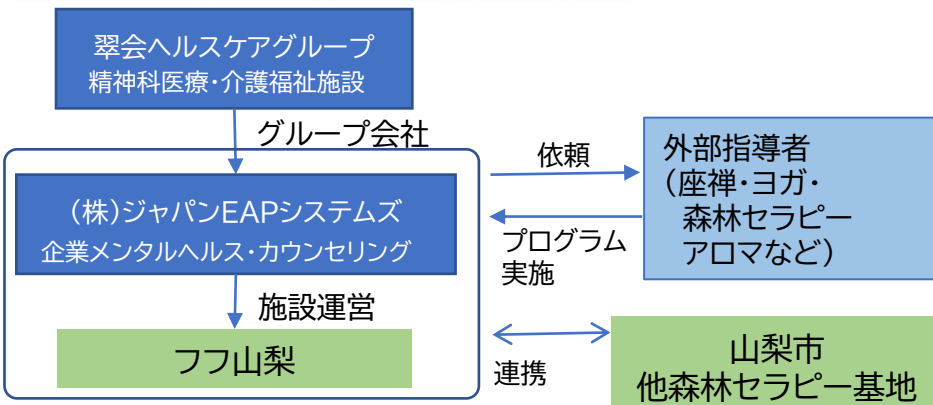
安全な野菜を中心にしたバランスの取れた食事を提供。

運動



森林セラピー・ヨガなどを行い、自律神経を整える

実施体制・役割分担



感覚活用



農業体験・アートセラピーなど五感を活用するプログラム

リラクゼーション



ゆっくり入浴。静かな時間を過ごせるスペースも設けられている。

コミュニケーション



自然や地元の人との交流。さらには自分自身との交流も。

実績

- 団体利用数:135組 1,276名(2019年実績)
- 宿泊者数:3,374人/年(2018年実績)うちリピーター22%

II. 受入地域の事例（健康分野／民間事業者）

4 遊休施設から森林・農園を活用した保養リゾートを創出「保健農園ホテルフフ山梨」(山梨県山梨市)

◎ 特徴1／地域内の多様な人材を活用してプログラム提供

- 山梨県内の資格・スキルを持った人材へアプローチし、個人契約のもと、各種プログラムを実施している。2020年3月現在、座禅講師6名、ヨガ講師4名、森林セラピスト11名、その他のセラピスト6名に依頼している。
- 農園づくり・農園クッキングは、山梨市が施設を運営していた当時のシェフが実施している。
- ホテルのスタッフ(常勤8名とパート職員)は地元住民を中心に採用している。

◎ 特徴2／様々な団体が研修拠点として活用

- フフ山梨では、富士山を臨む豊かな自然と経験豊かなスタッフを強みとし、瞑想やヨガ等を通じて身体・思考・感情への気づきを深め、ストレス低減や免疫力の向上、集中力・注意力・記憶力の向上等に効果のある「マインドフルネス」等を中心とした研修プログラムを企業等向けに提供している。
- 「森とこころの研究所」を設置し、立教大学と連携しメンタルヘルスツーリズムに関する研究を進めるなど、科学的根拠に基づき企業・団体等の利用促進を図っている。
- 特別に広告掲載や営業活動はしていないが、利用者の口コミや、講師のネットワークによって認知度が広がってきた。

<セットプログラム>
 朝:こころを整えるプログラム
 ■坐禅
 ■センシング・ヨガ
 ■脳リカバリーヨガ
 ■陰陽ヨガ
 ■セルフ・チネイザン

昼:自然を感じるプログラム
 ■農園づくり・農園クッキング

夕:からだを整えるプログラム
 ■からだリセット
 ■セルフ筋膜リリース
 ■操体法
 ■無極功
 ■マインドフルネス・ヨガ
 ■セルフ・メンテナンス
 ・ストレッチ

➡ 2泊3日のプログラム例

時刻	1日目	2日目	3日目
7:00			
8:00		「センシング・ヨガ」	「座禅」
9:00		朝食	朝食
10:00			LSC・自律神経測定
11:00		農園づくり	チェックアウト
12:00		昼食	
13:00			
14:00		フリータイム (オプションプログラム 森林セラピー等)	
15:00	チェックイン		
16:00	LSC・自律神経測定		
17:00	「からだバランス」	「無極功」	
18:00			
19:00	夕食	夕食	
20:00			
21:00	暖炉で読書	星空観賞等	
22:00			
23:00	消灯	消灯	



【企業研修利用例】

- 製造業企業
：デザイン部門のクリエイティブ合宿
- サービス業企業
：組合・社員の健康向上宿泊
- 医療福祉業企業
：中堅職員のモチベーションアップ研修



- ✓ 日常業務とは違う五感メニューを全員で体験することで、一人一人の心のポテンシャルを向上。
- ✓ チーム内の相互理解や結束力を高める等の効果を期待。



- また、企業や講師がフフ山梨の施設を貸切り、オリジナル企画を実施する形での利用も行われている。

【企業や講師による貸切イベント 利用例】

- セラピー系講師のワークショップ
- 国内外ヨガ講師のワークショップ
- 地元の婚活利用

5 医師が設立した自然体感型の統合医療拠点 「日月倶楽部」「富士山静養園」(静岡県富士宮市)

所在地：静岡県富士宮市猪之頭2271 (日月倶楽部)
 実施者：(株)富士山静養園
 連絡先：(TEL)0544-52-2611 (mail)info@hitsuki-club.com
 URL：<https://hitsuki-club.com/> および <https://www.mt.fuji-seiyoen.com/about/>

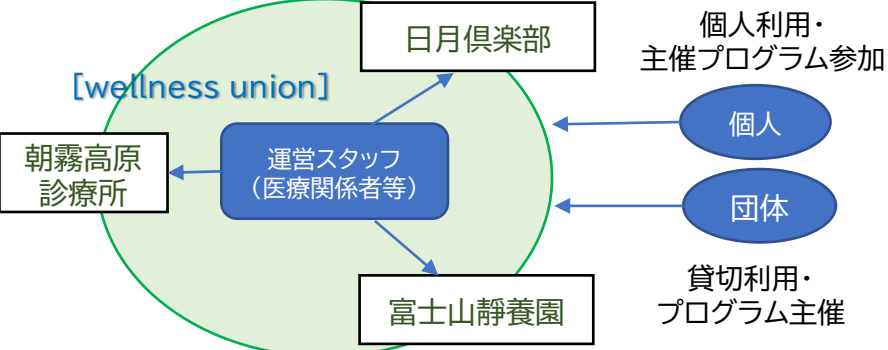
- 自然療法・予防医療に取り組む医師が、地域医療の診療所と自然の「動的体感施設」「静的体感施設」を組み合わせ開設・経営。
- 宿泊・食事等が行える拠点施設に加え、自ら取得・所有する広大な周辺森林等を活用、さらにヨガ等が行える研修施設や常温乾燥抽出器(ハーブウォーター作成機)、サウナ小屋、ドームテント等の特徴的な施設を備えた複合型のリゾート拠点となっている。
- 農業・自然療法・アロマ・ハーブなどのテーマを持った人々が自主プログラム開催の場として利用している。

取組の経緯

- アリゾナ大学統合医療プログラムを修了(2002年)した山本医師が、ドイツ・イタリア等の自然環境を生かした郊外型医療施設の視察等を経て、日本での統合医療モデルを構想。
- 2009年 統合医療の実践地として、「1万坪以上のまとまりがある土地」「自然林(広葉樹林)と針葉樹林がある」「標高300-1000m」「文化や歴史がある」といった条件から。静岡県富士宮市に「朝霧高原診療所」を開設。
- 2015年 団体利用を軸にした静的な自然体感型ヘルスツーリズム施設として「富士山静養園」を、個人の利用を含めた動的な自然体感型施設として「日月倶楽部」を開設。

実施体制・役割分担

- 「朝霧高原診療所」「日月倶楽部」「富士山静養園」の三施設は、山本医師夫妻を含む少人数のスタッフで運営。
- 個人や団体の利用者がそれぞれのテーマに応じて、施設側の主催プログラムに参加したり、自ら貸切プログラムを主催したりと、施設・フィールドを様々に活用している。



具体的なプログラム・メニュー

自然療法の考え方を基にしたヘルスプログラムを用意。滞在客は、自然の摂理・リズムに従って生活しながら、仕事や日常を忘れ自然に溶け込む時間を味わう。企業研修プログラム(1泊2日税別20,000円~)もある。

豊かな自然を生かした施設・プログラム



自然の中に滞在するため拠点として位置づけ。自然の中の散策路で静かに自分と向き合う。

多様な自然療法プログラムと設備



アロマセラピー、体質別薬膳茶、富士山を臨む環境でのヨガ等の多様なプログラムを提供。

医師監修の専門的プログラム(例)

スケジュール		
	1日目	2日目
14:00	集合・ガイダンス・良導絡検査(※)	6:00 起床・富士山ご来光&ヨガ朝の散歩&富士山湧き水取り
15:00	アーシング(※※)	
16:00	季節の植物採取・ハーブウォーター作り	8:30 朝食(地元の食材を基本にしたお食事)
18:00	自然欠乏症候群レクチャー	9:30 季節のマインドフルネス
19:00	夕食(地元の食材を基本にしたお食事)	11:00 チェックアウト
20:00	焚き火カフェ	
21:00	入浴・就寝	

(※) 良導絡検査：自律神経(交感神経、副交感神経)のバランスから心と身体の状態がわかる検査

(※※) アーシング：日常生活で電気製品に触れる等して体内に蓄積された電位を測定し、大地とつながることで放電し自然に近い身体の状態を回復すること。

自然欠乏症候群対策として、環境との調和を意識して多角的にアプローチするマインドフルネスプログラム。1泊2日税別19,800円~

実績

- 貸切利用：35団体/年間
- 宿泊者数：日月倶楽部：延べ約600人/年、富士山静養園：延べ約200人/年

II. 受入地域の事例（健康分野／民間事業者）

5 医師が設立した自然体感型の統合医療拠点「日月倶楽部」「富士山静養園」（静岡県富士宮市）

● 特徴1／自然を体感する施設としてのコンセプト・設計

- ホテル（宿泊場所）ではなく自然を体感するために滞在する場としてのコンセプトをもとに全体を設計。便利さを追求するのではなく、自然に溶け込める施設となっている。
- 日月倶楽部の施設の一部には築200年の古民家を活用。建具等は古いものを生かし、木材や漆喰などの自然の素材を使った、木のぬくもりを感じられる施設である。
- 厳しい自然の中でも心地よく過ごせるように設けられたドームテントには床暖房が入れられており、夜空や冬の富士山などを楽しむことができる。

【日月倶楽部】

◆3タイプの宿泊施設



宿泊棟（メゾネット）



ヴィンテージテント



エアストリーム付コテージ／その内部



◆自然を体感する施設



ドームテント



能舞台&テラス



研修棟



アウトドアエリア

【富士山静養園】

◆拠点施設（宿泊・食堂・研修）



庭園に隣接する施設



食堂・研修スペース



研修棟／研修スペース



◆豊かな森林と多様な施設



敷地内の森林散策路



敷地内の湧水



サウナ小屋



ハーブウォーター作成機

● 特徴2／人が人を呼び、団体等による貸切利用が増加

- 代表の山本医師の、様々な企業の産業医や地元小中学校の学校医としての活動のほか、日本統合医療学会（富士山支部長）、日本ホリスティック医学協会（理事）、日本リラクゼーション業協会（顧問医師）などの専門分野でのネットワークを生かして、日月倶楽部・富士山静養園の施設や自然環境を生かした各種研修やプログラム開催等の利用が広がっている。
- これまではインターネット環境が悪かったため企業の研修等の利用は難しかった。2020年4月から光ファイバーが入るため企業研修プログラムの案内を始めた。

これまでに開催された他団体・個人によるプログラム

講師（個人・団体）	テーマ
理学療法士	滞在型森林リハビリ
鍼灸師	自然から学ぶセルフケア
日本統合医療学会 富士山支部	統合医療についてのセミナー・交流
自然学校ホールアース	富士山トレッキング
華道家、能楽宗家、医師	農と自然とマインドフルネス
クリスタルボウル奏者、 二胡奏者	富士山音浴リトリート
薬剤師／ハーブショップ経営者	Caregiverが知っておくべきハーブ
ブッシュクラフトインストラクター、 星空案内人	富士山の夜景と夜空でワイルドフルネス
アロマセラピスト、マクロビオティック料理家	冬至のアロマとヨガと蘇りの食
全日本ノルディック ウォーク連盟、 カウンセラー	大人の道草ノルディック
日本食事療法士協会	初めての食養生～冬に向けた体質改善～

写真出典：日月倶楽部（<https://hitsuki-club.com/>）

富士山静養園（<https://www.mt.fuji-seiyoen.com/about/>）

6 健康増進施設をコンセプトにした体験型の森のスパリゾート 「Sport & Do Resort リソルの森」(千葉県長柄町)

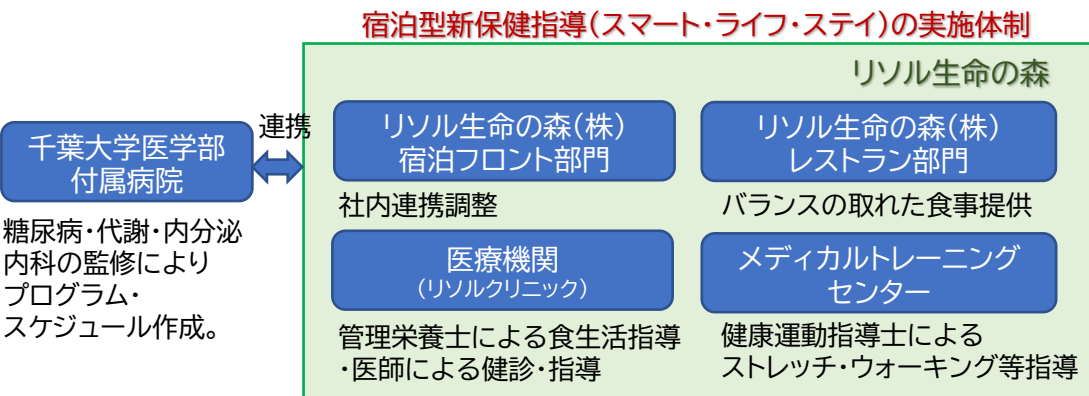
所在地：千葉県長生郡長柄町上野521-4
 実施者：リソル生命の森(株)
 連絡先：(TEL)0475-35-5911 (mail)
 URL：https://www.seimei-no-mori.com/

- 100万坪の敷地に、スポーツ施設やクリニック、宿泊施設、フォレストアドベンチャーを併設した体験型リゾート施設。2020年4月には、グランピング等の施設整備やスポーツ・体験プログラムを充実させて「Sport & Do Resort リソルの森」としてリニューアル。
- 施設の一部は「厚生労働大臣認定健康増進施設」に認定されており、企業等の社員の健康づくり・社員研修等として多角的に活用。

取組の経緯

- 1985年 高齢化社会に対応するクリニック・アクティビティを併設した健康プログラムの提供を目的に、日本エアロビクスセンター(現・メディカルトレーニングセンター)オープン。メディカルフィットネス施設として健康づくりメニューを提供。
- 1989年 日本エアロビクスセンター(現・メディカルトレーニングセンター)が厚生労働大臣認定健康増進施設・指定運動療法施設に認定
- 2007年 自然共生型アドベンチャースポーツ&パーク(現・フォレストアドベンチャー)「TARZANIA(ターザニア)」オープン
- 2015年 厚生労働省「宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)試行事業」採択。
- 2017年 スポーツエールカンパニー認定
- 2020年 温泉とグランピングを新設するとともに、スポーツエリアをスパ&フィットネスとするなどの施設全体の上質化により、「Sport & Do Resort リソルの森」としてリニューアル。

実施体制・役割分担



具体的なプログラム・メニュー

メディカルトレーニングセンター



屋外・屋内の様々なスポーツ設備と、温泉を備えたスパ&フィットネス施設。内科・循環器科を中心とする診療・健診を行う「リソルクリニック」を併設。

フォレストアドベンチャー・ターザニア



専用のハーネスを着用し木から木へ移動する冒険施設。安全を確保しつつ親子・子ども同士で遊び、自立心を育む。

グランピングエリア(テントキャビン・テラスハウスなど)



自然の中での滞在を楽しめる様々な形の宿泊施設を用意。

コミュニケーションハウス



檜づくりのログハウス

企業・団体向けのプログラム

企業等向けの健康づくりプログラムとして「宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)」や、企業等向けのプログラムとして「チームビルディング研修」を提供するとともに、多様な福利厚生サービスを提供。(次頁「特徴1・2」参照)



実績(2018年実績)

- 健康レク会員(企業・健康保険組合等) : 11社・団体
- チームビルディング研修 : 110団体延べ6,254泊
- 宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ) : 7社95名
- フォレストアドベンチャー利用者 : 35,623名
- メディカルトレーニングセンター利用者 : 延201,525名

II. 受入地域の事例（健康分野／民間事業者）

6 健康増進施設をコンセプトにした体験型の森のスパリゾート「Sport & Do Resort リソルの森」(千葉県長柄町)

◎ 特徴1／「宿泊型新保健指導」プログラムの提供

- リソルの森では、2015年度厚生労働省「宿泊型新保健指導試行事業」の採択を受け、森林を活用した健康増進プログラムの構築を推進。
- 敷地内のメディカルトレーニングセンターでの運動指導やリソルクリニック医師による健診・指導に加えて、広大な敷地の豊かな自然環境を生かした森林内のウォーキングなど、「複合施設」のメリットを活かしたプログラムを構築。(参加費59,200円～)

森林浴ウォーキング



「宿泊型新保健指導」プログラム概要

1日目	2日目
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防(講義) 体力測定・ストレッチ バランスや栄養に配慮した食事 食事・栄養指導 	<ul style="list-style-type: none"> 森林浴ウォーキング 運動目標づくり

宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)

生活習慣病を効果的に予防することを目的に、糖尿病が疑われる者等を対象として、ホテル、旅館等の宿泊施設や地元観光資源等を活用して保健師、管理栄養士、健康運動指導士等が多職種で連携して提供する新たな保健指導プログラムである。快適な環境でやる気が向上する、集中的な保健指導により効果が向上する、その結果将来的な重症化が予防できる等のメリットが期待されている。

ウェルネストラックの整備

- 広大な敷地を生かし、里山の風景や空気を個人でも愉しめるように、「歩きたくなるまち」のコンセプトに基づいた「リソルの森 ウェルネストラック」を千葉大学とともに整備。
- 歩数、距離に加え、身体的負荷を示すMETSや植生指数であるNVDIを表示。ウェブと連動した周辺環境の見所案内を組み合わせることで、健康や自然への「気付き」を促す。
- 千葉大学予防医学センターと連携し、今後、参加者の身体活動負荷、身体活動量のプロファイルを作成し、その時々々の体調や天候などに合わせたトラックの選択や、健康的な生活のためのアドバイスをフィードバックする手法を研究していく。



◎ 特徴2／企業・健康保険組合と、多様なアプローチで関係構築

- グループ企業であるリソルライフサポート株式会社では、企業の様々な健康経営ニーズに合わせ、様々な福利厚生サービスを提供している。様々なプログラムを介し、企業・健康保険組合と関係を構築していることで、リソルの森を利用した宿泊・研修プログラムの利用につながっている。

企業向けの主な福利厚生サービス

- **ヘルスプロモーション+**
従業員がスマートフォンの健康アプリケーションで運動情報や健康情報を記録すると、1,000歩で1ポイント等のポイントを獲得できる。集めたポイントは福利厚生メニューの利用料に充当できるため、従業員の健康インセンティブを向上させる効果がある。
- **オフィスde健康チェック**
事業所を訪問し血液検査や身体測定、保健指導を行う。
- **宿泊型新保健指導** (左記参照)
- **チームビルディング研修**
体を使ったゲーム、ディスカッション、自然豊かな環境の中でのワークにより、チームビルディングを行う研修。



宿泊型新保健指導の利用事例(総合化学メーカー)



千葉県内工場現場スタッフの中から、健診結果から血糖値が高めの糖尿病予備軍として健康管理室が選定した10名を対象に宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)プログラムを実施。自然豊かでリラックスできる環境、工場の近くにあることからリソルの森のプログラムを選定した。



実施後、HbA1c血糖値の低下や体形の変化、不規則な生活の見直し、飲酒機会の減少等の変化が見られた。将来の疾病による退職者削減の効果が期待される。

◎ 厚生労働省「健康増進施設・指定運動療法施設」への指定等を利用した利用促進

- メディカルトレーニングセンターは「健康増進施設」「運動療法施設」に認定されており、運動療法の費用は医療費控除が受けられることとなっている。この制度を利用し、企業・健康保険組合に向けて、「リソルの森」での運動療法を提案。
- また、企業・健康保険組合を「健康レク会員」として登録する制度があり、会員企業の従業員・家族はメディカルトレーニングセンターを自由に利用できる等の特典がある。

7 旧青少年教育施設の公民連携のリノベーション 泊まれる公園「INN THE PARK」(静岡県沼津市)

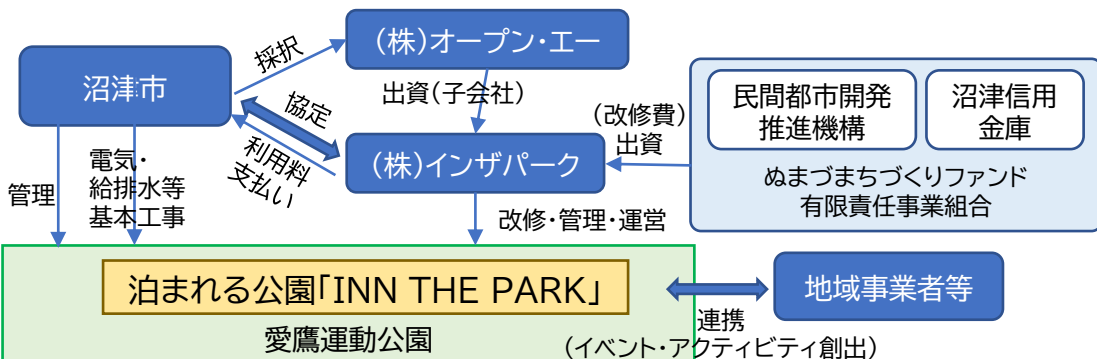
所在地：静岡県沼津市足高220-4
 (愛鷹運動公園内 旧沼津市立少年自然の家)
 実施者：(株)インザパーク
 連絡先：(TEL)055-939-8366 (mail) info@innthepark.jp
 URL：https://www.innthepark.jp/

- 沼津市は、利用者減による赤字のため閉鎖した「沼津市立少年自然の家」を活用する新規事業提案を公募。
- 採択された事業者が子会社を設立し、宿泊・飲食施設の管理・運営とともに、利用促進に向けたイベント・アクティビティ創出等を実施。
- “泊まれる公園”をコンセプトに、既存施設をリノベーションするとともに、シンボリックなドーム型テント等の新設等を実施。
- リニューアルに合わせて、幅広く地域の事業者の参画・連携を促進して、集客力のあるフェスタやイベント・ワークショップ等を開催。

取組の経緯

- 1974年 沼津市少年自然の家開所。
- 1982年には年間延べ4万人が利用していたが、2010年代は利用者が1万人を割り、年間数千万円の赤字を計上する状態となり、施設の閉鎖を決定。民間事業者のノウハウを生かし、既存の建物や周辺の環境を生かした新たな価値の創造を目指す取組として、施設の運営を行う民間事業者を募集することとなった。
- 2016年6月 施設活用の公募型プロポーザルを実施。
- 2016年11月 選定された(株)オープン・イー(東京都中央区)と沼津市が基本協定を締結。子会社(株)インザパーク設立。「ぬまづまちづくりファンド」を活用して資金調達してリノベーションを実施。
- 2017年 3月31日に沼津市立少年自然の家廃止、9月インザパークとして営業開始。
- 2018年 利用者のニーズの高さから、テントを増設。
- 2019年 テントと屋外ダイニングを増設。

実施体制・役割分担



具体的なプログラム・メニュー

- 管理棟(受付・食堂等)・宿泊棟・工芸館などは、既存施設をリフォーム。
- 森林内には、「INN THE PARK」のシンボルとして「ドームテント」「吊テント」を新設しており、人気を集めている。
- 飲食はカフェスタンドや屋外ダイニング等、屋外の開放的空間で楽しめる。

球体型テント



宿泊棟



屋外ダイニング



カフェスタンド



地元食材を生かした食



イベント開催



実績

- 宿泊者数：約5,000人/年
- イベント数・来場者数：【大規模イベント】3日/年・延べ4,500人/年
 【ワークショップ等】46日/年・延べ750人/年

Ⅲ. 受入地域の事例（公民連携）

7 旧青少年教育施設の公民連携のリノベーション 泊まれる公園「INN THE PARK」(静岡県沼津市)

◎ 特徴1 / 公共施設を公民連携手法によりリニューアル

- 使われなくなった公共空間の情報を全国から集め、企業等とマッチングするサイト「公共R不動産」を運営する㈱オープン・エーが、沼津市少年自然の家の運営事業者に応募。
- 管理棟・宿泊棟・付属棟は、ベッドや家具・照明等の設備を入れ替え、開放感・清潔感のある快適な滞在空間を創出。
- 野外炊飯場はアウトドアキッチンとし、芝生広場にはカフェスタンドを設置するなど、自然の空気を感じながら飲食が行える空間になっている。
- さらに、これまで活用していなかった林間に、新たに球体型テント・ドームテントを設置。

◎ 特徴2 / 民間連携によるイベント等開催で新規顧客を開拓

- インザパーク社の管理区域以外の公園管理は、沼津市緑地公園課が行っているが、年間の休日の180日以内であれば、市の許可を受けたうえで優先的にイベント開催が可能となっている。
- そこで、週末等に、幅広く沼津市民に訪れてもらえるように、地域の多様な事業者等と連携・協働して、多様なイベント等を開催している。



【イベント開催例】

● 多様な事業者等に出品してもらったイベント

：アート・音楽から雑貨・食事を親子で楽しめるフェスタ「YES GOOD MARKET」、雑貨販売やワークショップ等が行われる「Picnic market」(定期的に開催)など。新規顧客の開拓につながる。

● ターゲット・テーマを明確にしたイベント

：女性をターゲットにした「ヨガ教室」「アロマ講座」、親子をターゲットにした森の中での自然あそび入門教室「ASHITAKA ADVENTURE SCHOOL」、ものづくりワークショップ(家具づくり・スプーンづくり等)、「森の映画祭」や「座禅会」「盆栽ワークショップ」等。様々な事業者と連携して多彩なイベントを頻繁に開催している。

● ウェディング

：自然の中でのウェディングを演出し、年間10件程度の利用がある。

【既存施設のリニューアル】

宿泊棟(外観)



宿泊棟内部



食堂



野外炊飯場



【新設】

球体型テント



カフェスタンド



YES GOOD MARKET



ウェディング



金工ワークショップ



映画祭



8 町立キャンプ場のリニューアルで多様なアクティビティ創出 「Tree Picnic Adventure IKEDA」（福井県池田町）

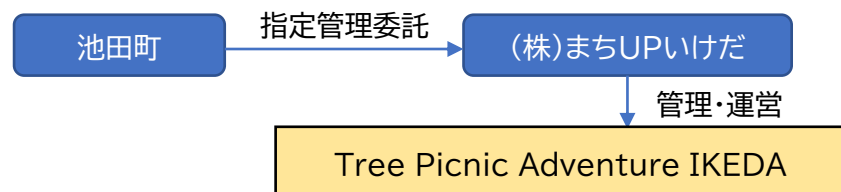
所在地：福井県今立郡池田町志津原28-16
 実施者：（株）まちUPいけだ
 連絡先：（TEL）0778-44-7474
 （mail）info@picnic.ikeda-kibou.com
 URL：<http://www.picnic.ikeda-kibou.com/>

- 町立キャンプ場をリニューアルし、広大な敷地の中にアスレチックやジップライン等の施設を整備。子どもから大人まですべての世代が好奇心や冒険心を育みながら、森林や自然に触れるきっかけとなる多様なプログラムを構築している。
- 子どもの発達段階に合わせて繰り返し訪れたくなるプログラムを整備することで、ファミリー層を中心にリピーターが増加。
- 町の「木望のまちプロジェクト」での様々な施策展開と合わせ、移住者増にもつながっている。

取組の経緯

- 池田町は高齢化率が県内で最も高いことなどからまちの存続に対する危機感が高まる。
- 2014年 森林資源を生かした地域循環型まちづくりプロジェクト「木望のまちプロジェクト」始動。
- 2015年 遊休状態の木工ギャラリー・販売所を改修し、木育の場「おもちゃハウス こどもと木」オープン。町の人口の約10倍以上が年間に来訪する人気施設となった。
- 2016年 遊休状態の木工場を改修し、親子で木工体験を楽しめる施設 Wood LABO Ikedaをオープン。
- 同年 町立キャンプ場をリニューアルし、メガジップライン、アドベンチャーパーク、アドベンチャーボートを中心に、コテージ・カフェ運営やガイドツアー等を実施する「Tree Picnic Adventure IKEDA」としてリニューアル・オープン

実施体制・役割分担



- ゼネラルマネージャーの下、フロント関連スタッフ(6名)、アクティビティ関連スタッフ(15名)が勤務。
- スタッフは、広報や営業、森林整備、イベント企画等の業務を兼任。マルチワーク化を進め、1人1人のスタッフが関連部門内の複数業務が可能な体制を取り、臨機応変に人員を調整している。

具体的なプログラム・メニュー

- 単にレジャーを楽しむだけではなく、「好奇心」を刺激し、森の中で「学ぶ」「遊ぶ」「結ぶ」をキーワードにした様々なプログラムを整備している。
- 厄介者の雪を生かした「ウインタージップライン」「スノーシュー」をはじめ、満月の夜に行う「ナイトジップライン」など、四季折々の自然を生かしたプログラムがある。

メガジップライン



ワイヤーを滑走

アドベンチャーパーク



子供の成長に合わせたコース設定

アドベンチャーボート



家族のみでチャレンジするラフティング

樹上テント



冒険心を育む樹上体験

食事提供 (カフェピクニック)



地元食材を使ったカフェ

冬季アクティビティ ウインタージップライン



雪中を楽しむジップライン

校外学習・企業研修 森のお仕事体験



池田町での仕事を体験

チームチャレンジ ロープワーク



チームワークを高めるプログラム

実績

- アクティビティ体験者：42,000人、企業・学校等の利用：13団体（2019年）
- 年間売上：1億3,000万円
- 新規雇用：30名（うち21名が正社員）

Ⅲ. 受入地域の事例（公民連携）

8 町立キャンプ場のリニューアルで多様なアクティビティ創出 Tree Picnic Adventure IKEDA（福井県池田町）

● 特徴1 / 子どもの発達段階に合わせたプログラム

- ・ 身長100cm(4歳程度)から10cmごとの体験プログラムを用意し、子どもの成長に合わせて毎年新たなチャレンジができるプログラムを構築している。
- ・ 子どもの発達段階に合わせて関係性を構築するプログラムにより、ファミリー層を中心にリピーターが増えている。

アドベンチャーボート



身長100cm～。スタッフが同乗せず家族のみでチャレンジする。家族のチームビルディングに効果あり。

キッズコース



身長110cm～。インストラクターが付いて子どもだけでチャレンジ。他の子と助け合って進む。

ツリークライム



身長120cm～のチャレンジコース

ディスカバリーコース



身長130cm～スリル満点のアドベンチャーを家族・友達と協力してクリア。木の上のハンモックやソファもある。

▶ **メガジップライン** 身長140cm～は、目玉アクティビティであるメガジップラインにチャレンジできる

○ 木望のまちプロジェクトについて



「おもちゃハウスこどもと木」

2015年開業の木育施設。池田町産の遊具や木のおもちゃで遊びながら、子どもたちの豊かな感性と想像力を育む場として人気を集めている。

「Wood LABO ikeda」

ものづくりを通して暮らしと木をつなげる木工体験施設。池田の木を使った木工体験や、DIYなど子どもから大人までものづくりを楽しみながら交流できる場となっている。

その他

1歳児に木のおもちゃのプレゼント、新1年生に木の机と椅子のプレゼント等の事業を行っている。



● 特徴2 / 既存施設を独自性の高い森林活用施設へ。

リニューアル前「旧志津原キャンプ場」



テントサイト、ログハウス、バーベキューハウスを備えた施設だったが、周辺施設と比べて特に特徴のあるキャンプ場とは言えず、利用者が低迷していた。

リニューアル後「Tree Picnic Adventure IKEDA」



- ・ センターハウスを建て替え、敷地内の森林を整備し広大なアドベンチャー施設としてリニューアルした。キャビンや樹上テントは開業後に新設した。
- ・ 「木望のまちプロジェクト」のなかで、森の再生と伐採した間伐材の利用による木活施設として、また、子どもたちが森や木々に触れあいながら遊び、学ぶことができる木育施設となっている。
- ・ 岐阜県と池田町を結ぶ冠山トンネルの開通や北陸新幹線の開通を受け、さらなる増設が計画されている。

【木望のまちプロジェクト開始前後の移住者数の推移】

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
人数	10	1	5	4	11	13	25	17	20	18
世帯数	3	1	5	1	6	8	14	12	11	13

木望のまちプロジェクト開始後

9 フォレストアドベンチャー事業を軸とした森林公園再生 「フォレストアドベンチャー・糸島」（福岡県糸島市）

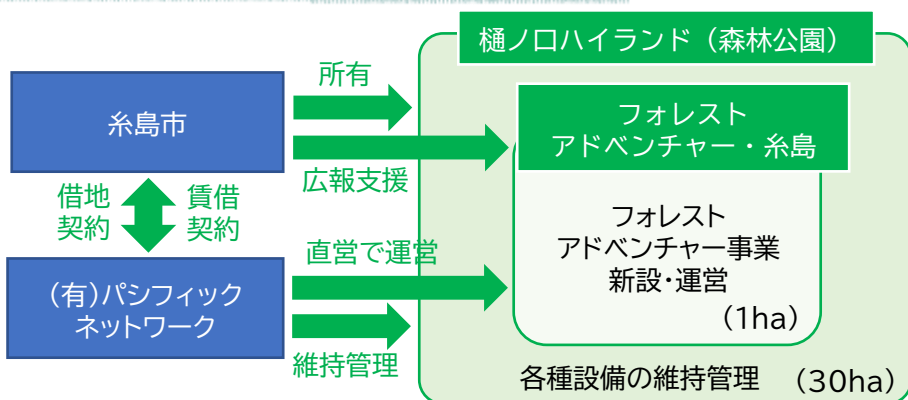
所在地：福岡県糸島市二丈一貴山312-390 樋ノロハイランド内
 実施者：株式会社フォレストアドベンチャー
 連絡先：（TEL）080-5548-2070 (mail) itoshima@foret-aventure.jp
 URL： <https://fa-itoshima.foret-aventure.jp/>

- フォレストアドベンチャー事業を展開・管理する(有)パシフィックネットワークは、糸島市から森林公園全体(30ha)と各種施設を借り受け、森林公園の維持管理等と一体となって、新たに「フォレストアドベンチャー・糸島」をオープン。
- 「フォレストアドベンチャー・糸島」の事業収益によって、森林公園のトイレ・電気水道等のインフラを維持管理等を実施。
- 幅広い市民等が森林公園内を訪れるように、花見やウォーキングのための樹林地や散策路等の整備も実施。

取組の経緯

- 2012年に、(有)パシフィックネットワークは糸島市立の森林公園「樋ノロハイランド」を、管理運営と一体となって森林公園(30ha)の借地契約を締結しつつ、「フォレストアドベンチャー・糸島」を開設。
- 同社は、森林公園全体の整備・管理運営を行う傍ら、トイレや電気水道などのインフラを活用してフォレストアドベンチャー事業を展開。
- 駐車場の他、アトラクション器材の整備や安全管理等は、全て自社の基準に則って自前で行う。
- 2015年より企業及び学校、その他団体向けの、研修プログラムを開始
- 糸島市側は借地料を得る一方で、案内版の設置、広報宣伝等を支援。

実施体制・役割分担



具体的なプログラム・メニュー

- 森林公園である「樋ノロハイランド」は、旧来、森林組合が継続管理していたため、「百年の森」と称されるなど、豊かな森林が広がる。
- 森林公園内では、春には桜、シャクナゲの花が咲き、秋には紅葉が楽しめ、展望スポットからは糸島の海が一望できるスポット。
- 「フォレストアドベンチャー・糸島」では、その森林で、樹間を渡り、スリル・展望を味わえるプログラムを提供。(用地面積:1ha)(アドベンチャーコース：5サイト、キャノピーコース[110cm以上]：4サイト)
(大人・子供3,800円/人 団体3,500円/人)
- 企業向けの「チームビルディング研修」「リスクマネジメント研修」を実施するとともに、修学旅行等の学生向けの団体受入も実施。
- 福岡市から自家用車で約1時間とアクセスが良いことから、福岡市からの来訪者が多く(約9割)、約6割が女性客であり、SNS等での口コミで来訪者が増加。



実績（2017年度実績）

- 職員：正規職員5名、臨時雇用12～13名
- 来場者数：約38,000人/年（うち、研修4社 48名）
- 用地面積：1ha（森林公園全体としては約30ha）
- 営業期間：3～12月

Ⅲ. 受入地域の事例（公民連携）

9 フォレストアドベンチャー事業を軸とした森林公園再生「フォレストアドベンチャー・糸島」(福岡県糸島市)

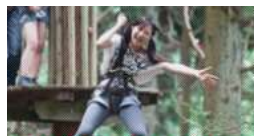
◎ 特徴1 / 全国展開するフォレストアドベンチャー事業

① フォレストアドベンチャーの事業発展

- 2006年8月に第一号のフォレストアドベンチャー・フジがオープン。
- 以後、2019年末までに全国で30箇所を数えるまでに事業発展。
- 必要面積は約1haで、利用者が安全に樹間を渡れる強度の高い立木があれば施設整備は可能。
- 年間、万単位の利用者が訪れる各パークの収益性は高く、新たな森林の有効活用の好例として注目される。

② 多様な対象者に合わせたコースを設定

- 「アドベンチャーコース」(対象:子どもは保護者同伴):森の高低や特徴を活かした難易度の高いコース。安全講習を受講後、安全機器の着脱は自身で行う。
- 「ディスカバークース」(対象:子どもは保護者同伴):難易度はやや抑えているものの本格的なコース。安全講習を受講後、安全機器の着脱は自身で行う。
- 「キャノピーコース」(対象:小学生3年生以上):自分で器具を操作せずに安全確保できる器具を使用し、比較的シンプルで難易度を抑えた初心者向け。
- 「キッズコース」(対象:身長90cm以上～小学3年生):自分で器具を操作せずに安全確保できる器具を使用し、保護者の目の届く約1～2mの低い位置に設置。



ADVENTURE アドベンチャーコース

森の特徴を生かしたダイナミックで難易度の高いコース。大人の方におすすめです。



DISCOVERY ディスカバリーコース

難易度を抑えて、森を楽しめるコース。家族みんなで楽しめます。



CANOPY キャノピーコース

安全性が高いシステムを利用し、小さなお子様でもご利用いただけます。学校団体様にもおすすめ。



KIDS キッズコース

低い位置に設置しながらも山の地形を利用したジップスライドも体験出来ます。

◎ 特徴2 / 地域・林地の特性を生かしたアトラクション

- フォレストアドベンチャー・糸島は、トイレや電気水道等、森林公園のインフラを効果的に再整備し事業に活用。
- 林地の特性に鑑み、2015年に西日本初となる「キャノピーコース」をオープン。
- 日本一長いとされる130mのジップスライドが人気に。
- 樹上から空中へ飛び出す「ターザンスイング」等、糸島ならではのアトラクションも存在。



③ 運営形態の特徴とスタッフ雇用

- 各パークの運営は、運営会社である(株)フォレストアドベンチャーが統括する中、「直営」と「フランチャイズ」に大別される。
- スタッフは多くが現地で雇用されており、各地での就業の機会を提供。

④ 共通の安全管理基準の徹底

- 各パークは、フォレストアドベンチャーが採用する欧州の安全管理基準に則ることが求められ、安全器具や足場等の重要部材の調達・施工も一括されている。



10 多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営 「(株)T-FORESTRY」（神奈川県小田原市）

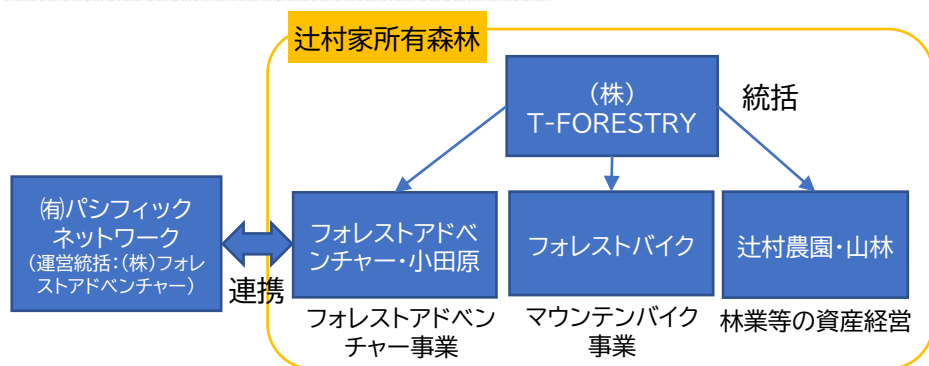
所在地：神奈川県小田原市荻窪4385
 実施者：(株)T-FORESTRY 代表：辻村百樹氏
 連絡先：(TEL) 0465-22-2934 (mail) odawara@t-forestry.co.jp
 URL：<https://fa-odawara.foret-aventure.jp/>

- 神奈川県小田原市の「辻村農園・山林」では、(株)T-Forestryを設立し、「森は悠久の産物、里山は地元の恵みの源泉」「今ある良い森を壊さない」との観点に基づき、多様な森林活用を組み込んだ新たな森林所有者の経営モデルを提示。
- 江戸時代からの森林経営の歩みを継承し、その地域の歴史を体感できる遺構の保存やウォーキングトレイル整備を実施。
- 近年は、所有森林内で樹上での冒険を楽しむ「フォレストアドベンチャー」や、マウンテンバイクによる「フォレストバイク」を導入。

◎ 取組の経緯

- ▶ 森林所有者である辻村家は、江戸時代から当地で藩有林の経営を展開。現在は他県を含め150haの山林を所有経営。
- ▶ 代々の当主によって林業経営をはじめ、製材、水力発電・太陽光発電施設の建設、梅園の開設（現在、辻村植物公園）等、地域や社会のニーズを柔軟に取り入れた多角経営を展開。これらの森林経営の歴史を気持ち良く歩きながら体感できるトレイルも整備。
- ▶ 2010年に、所有森林内に「フォレストアドベンチャー・小田原」を開設し、「(株)T-FORESTRY」として運営。
- ▶ 2017年からは、森林内の古道や敷地をマウンテンバイク用のトレイル・トラックとして整備。そこでマウンテンバイクの初心者講習とフリーの走行を楽しむフィールド・プログラムを「フォレストバイク」として提供を開始。

◎ 実施体制・役割分担



◎ 具体的なプログラム・メニュー

- 辻村家による森林経営の歴史を体感できる「ウォーキングトレイル」を整備。ガイドを伴う「ウォーキングツアー」も実施。
- 「フォレストアドベンチャー・小田原」は、樹齢300年の杉の大木が点在する森と、そこに流れる溪流が織りなす幻想的な風景の中で、樹間を渡り、スリル・展望を味わえる日本最大のディスカバリーコース。
 (ディスカバリーコース：8サイト、キッズコース：3サイト、用地面積：1ha)
 (大人：3,800円/日、子供：3,000円/日、キッズコース：2,000円/日)
- 「フォレストバイク」は、森林内でのマウンテンバイクによる走行を学ぶための初心者講習、ショートレッスンと、フリーで走行を楽しめる体験を提供。
 (初心者～上級者向けの7コース)
 (初回ガイド付講習：3,500円/半日、フリー走行：2,000円/半日・3,000円/日、
 ショートレッスン：1,000円/30分、バイク貸出：2,000円/半日・3,000円/日)



◎ 実績（2018年度実績）

- 株式会社T-FORESTRY：役員/社員10名、臨時雇用20名
- フォレストアドベンチャー・小田原 来場者数：約25,000人/年
- フォレストバイク来場者数：約2,000人/年

IV. 受入地域の事例（森林所有者等による新たな利用開拓）

10 多様な森林活用を組み込んだ新しい森林経営「(株)T-FORESTRY」（神奈川県小田原市）

◎ 特徴1 / 地域の森林経営の歴史を体感できる試み

① 森林内における様々な取り組みの遺構を保存

- 江戸時代：藩政期から実施されてきたスギ植林を受け継ぎ、樹齢300年程度のスギを筆頭に100本ほどの美しい古木が残されている。
- 江戸時代から周囲を潤していた溜め池が残されており、その水源林も管理されている。
- 大正時代に建設された石組みの水力発電施設の遺構が、山越えて水を引いてきたトンネル跡と共に保存されている。
- 大正時代から戦後にかけて稼働していた辻村家の製材所跡も存在している。
- 第二次世界大戦中の砲台跡や防空壕なども見ることができる。
- 昭和～平成にかけて、所有地の梅園を一般開放し、1990年にその大半を小田原市に譲渡。市営辻村植物公園として利活用されている。

② これらの歴史と現在の利活用を同時に体感できる散策

- 江戸～令和を通じた森林経営の歴史を感じる風景や遺構の合間に、近年の太陽光発電施設、フォレストアドベンチャー、フォレストバイクが現れる森林内の散策は、まさに時空を超えたタイムトラベル！
- そのためのトレイルも、T-Forestryによって歩きやすいように整備されている。



水力発電施設の遺構



樹齢数百年のスギ



フォレストバイクコース

◎ 特徴2 / 来訪者を惹きつける多様なアトラクション

○フォレストアドベンチャー・小田原

- 日本最大のディスカバリーコース / 8サイト 38アクティビティ(内3つのアクティビティがアドベンチャーコース)
- 幼児も楽しめるキッズコースも2019年にオープン / 3サイト 12アクティビティ (団体利用も受入)



○フォレストバイク

- 著名なトレイルビルダー(マウンテンバイク等のトレイル作りの専門家)を招いて、初心者から上級者まで、スキル別に安全で楽しめる魅力的なコースを準備。
- マウンテンバイクのショップ・メーカーと連携した試乗会等も定期的開催



- ①ファーストトレイル First Trail 約 270m 初めてのおフロードに最適なオーバーホールコース
- ②セカントレイル Second Trail 約 300m コーナーの多いコース
- ③渾身のトレイル Urashima Trail (Odawara-Oei-Ocean) 約 600m 初心者から中級者まで楽しめるトレイル
- ④ポンプ小屋トレイル Water Pump Trail 約 200m 中級者から上級者におすすめの下りトレイル
- ⑤スネークトレイル Snake Trail 中級者から上級者限定の3Dフロートレイル (26インチ以上のバイク限定) 約 300m
- ⑥スキルパーク Skill Park スキルアップのための小バームと小ローラー
- ⑦ジャンプレーン Jump lane 初級者用、中級者用ダブルトップ

所在地：静岡県富士宮市麓156
 実施者：株式会社ふもとつぱら
 連絡先：（TEL）0544-52-2112
 （mail）info@fumotoppara.net
 URL：https://fumotoppara.net/

11 キャンプ場を核にした森林活用等と一体となった林業経営 「ふもとつぱら」（静岡県富士宮市）

- 社有林周辺の農場・施設をオートキャンプ場としてリニューアル。野外フェスの会場として使用することで認知度が向上。
- 利用者への森林・林業への理解を深めるため、林道・作業道でのマウンテンバイク・セグウェイ等のプログラムを行う他、野外フェス等においては、林業機械の展示や講演会・体験会などを実施して、キャンプ場来訪者への森林・林業の普及啓発も実施。
- 間伐材の薪の販売、ジビエ肉加工場整備、所有林の木材を使った宿泊施設等の新設・改修等により、林業経営と一体的に事業運営。

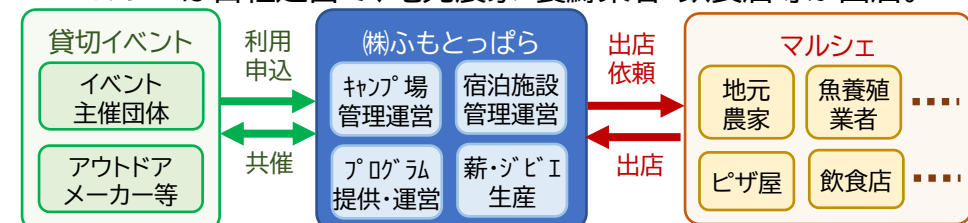
● 取組の経緯

「ふもとつぱら」は、富士山西麓に500ha超の山林を有する江戸時代からの専業林家。東京農業大学と連携して「富士森林施業技術研究所」を開設して、先導的に調査研究・技術指導・普及啓発等を実施。

- 2003年 社有林内での企業の森（テルモ社）の開始
- 2005年 「株ふもとつぱら」として法人化。
- 2006年 かねてから温めていた構想であるキャンプ場を開設。「すべての人に自然の中の生活を」をコンセプトに運営。
- 2009年 セグウェイ・ツリークライミングプログラム構築
- 2015年 長渕剛のコンサート受入以降、様々な野外フェスの開催地となり、認知度が高まり利用者が増大
- 2017年 コテージ（モデルハウス）新設
- 2018年 富士宮市麓山の家を買受・研修施設として活用、野外映画祭開催、地域材を使い毛無山荘・トイレをリニューアル
- 2019年 木質バイオマスボイラー設置、鹿肉処理場整備

● 実施体制・役割分担

- キャンプ場・宿泊施設等の管理運営、セグウェイ・マウンテンバイク等のプログラム提供、薪・ジビエ等の生産は直営で実施
- 野外フェス等のイベント主催者等と連携して貸切イベントを開催
- マルシェは自社運営で、地元農家・養殖業者・飲食店等が出店。



● 具体的なプログラム・メニュー

- 富士山を背景にしたロケーション、様々なプログラムの開催が可能な広大な自社有地内の各種施設の存在により、キャンパーの聖地として人気を集めている。
- 森林整備のための作業路をマウンテンバイクやセグウェイの走行路として開放するなど、キャンプ場来訪者を森林へ誘う仕掛けを組み込んでいる。

キャンプサイト



コテージ（地域材利用）



毛無山荘（地域材利用）



研修施設（地域材利用）



セグウェイ・マウンテンバイク体験



森の中の映画祭



野外フェス（会場貸出）



マルシェ



主要料金

キャンプ 中学生～1,000円、普通車2,000円、キャンピングカー等4,000円、薪1束500円
 宿泊施設/コテージ: 25,000円/棟～、毛無山荘: 20,000円/部屋、研修施設: 2,500円～
 セグウェイツアー: 8,800円、マウンテンバイク: 3,500円(コース走行料・レンタル料)

● 実績(2018年)

- キャンプ場利用客数: 68,000サイト(年間15～20万人)
- セグウェイ利用者数: 329名
- マウンテンバイク利用者数: 888名
- キャンプ場での薪消費量: 30,000束
- 林業体験及び林業研修: 2,010名

IV. 受入地域の事例（森林所有者等による新たな利用開拓）

11 キャンプ場を核にした森林活用等と一体となった林業経営「ふもとっぱら」（静岡県富士宮市）

◎ 特徴1／林業経営を行う森林を、アウトドア活動に活用

- 江戸時代から続く専門林家が、木材生産の場としての林業と、アウトドア等の森林空間利用を統合した、総合的な林業経営を行っている。
- 富士山を背景にした広大な敷地は、イベント開催地としても人気があり、野外フェス、音楽イベント、アウトドアイベント、映画祭などに様々な団体が利用し、さらに「ふもとっぱら」の知名度や集客力を向上させている。
- 森林整備のための作業路での「セグウェイ体験ツアー」や「マウンテンバイクパーク」は、キャンプ場来訪者を森林に誘う仕掛けとなっている。
- 野外フェス等においては、林業機械を展示したり、丸太切り体験をしたり、きこりの仕事を紹介するセミナーを開催するなど、林業の普及啓発等の取組も実施。
- キャンプ場利用者への薪販売、バイオマスボイラーの設置、コテージ等の施設での自社生産木材の活用など、本業である林業とキャンプ場の経営がリンクし、本体事業の収益の向上や林産物の利用拡大に繋げている。
- 2003年からは、テルモ(株)がふもとっぱら所有林内に「テルモ恵みの森」を設置し、企業のCSRとしての森づくり活動を受け入れている。

◎ 特徴2／木材の需要開拓に向けた取組

- 「ふもとっぱら」内に、所有林の木材を使った木造在来工法の「コテージ」を建設し、また、「毛無山荘」をリニューアルするなど、木の家に住む体験により木の温もりを感じてもらい、地元の木材を使った住宅需要につなげる試みをしている。
- さらに、自社産木材を使った伝統工法によるトイレ 兼 多目的施設を設置。キャンプ場や野外フェス来場者に、木材・伝統工法の良さを感じてもらうきっかけとしている。
- 住宅メーカー菊池建設と提携し、大黒柱を選定・伐採するツアーを継続的に開催。

朝霧高原マルシェ



地域の生産者・飲食店を応援する目的で、毎週末開催。

施設内での木材活用 (薪・エネルギー利用)



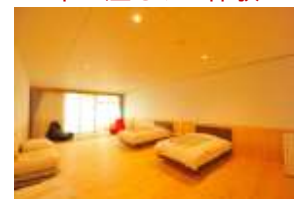
コテージ「毛無山荘」の暖房・大浴場の熱源を木質バイオマスボイラーに転換

企業と協働の森づくり



自社所有林内にテルモ(株)が「テルモ恵みの森」を設定し、森林整備活動を推進（写真出典：テルモ株式会社HP）

在来工法の「コテージ」 地域材を使った「山荘」 ～木の家の体験～



住宅メーカー「菊池建設」による 大黒柱伐採ツアー



出典：菊池建設株式会社HP

草原中央に設置されたトイレ 兼 多目的施設



写真出典：(株)ふもとっぱらHP・ブログ及び(株)ふもとっぱら業務資料

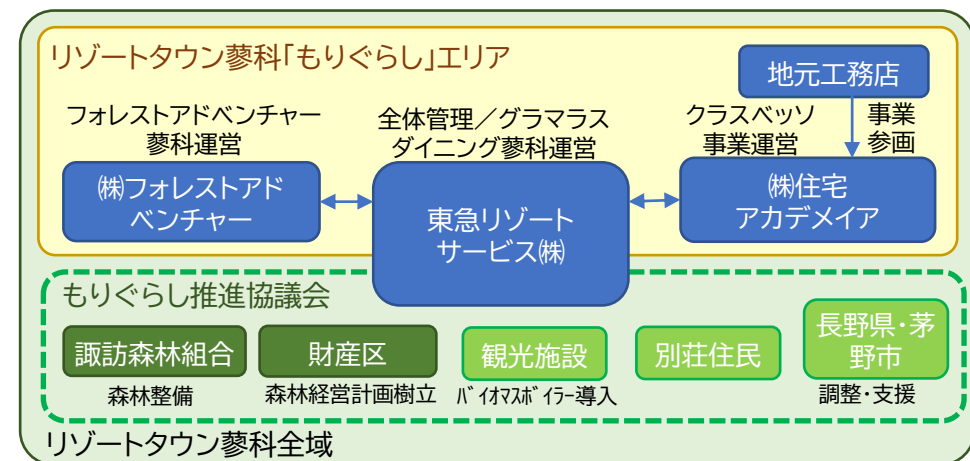
12 新たな森林と共生する別荘地づくりと、森と暮らすライフスタイル「もりぐらし」を提案「東急リゾートタウン蓼科」(長野県茅野市)

- 「東急リゾートタウン蓼科」では、森林資源を核とした「まもる」「つかう」「つなぐ」の持続可能な地域循環のサイクルを「もりぐらし」というコンセプトにまとめ、成長戦略として位置づけて事業を展開。
- 「つなぐ」は「食べる」「遊ぶ」「泊まる」の3つの要素で構成し、別荘地の新たな誘客促進につなげている。
- 自治体や住民、関係団体と「もりぐらし推進協議会」を立ち上げ、蓼科地域全体のブランドイメージ向上を進めている。

取組の経緯

- 2017年7月の豪雨災害により、東急リゾートタウン蓼科内で複数の大規模な土砂災害が発生。開発後は間伐等の手入れが行っていなかったが、持続的な運営に森林整備の必要性を認識
- 開業40年を迎え、別荘分譲地の空洞化等の様々な課題も発生。
- そこで、豊富な森林資源を経営資源ととらえ、森林所有者等の理解を得て「森林経営計画」を策定して、森林整備とバイオマスエネルギー活用等の資源循環利用の仕組みづくりを実施
- さらに、新たに森と暮らすライフスタイル提案に向けたシンボリックな施設整備を行うなど、「もりぐらしプロジェクト」を始動。
- 地元自治体や関係者などと「もりぐらし推進協議会」を立ち上げ、蓼科地域全体のブランドイメージ向上を進めている。

実施体制・役割分担



具体的なプログラム・メニュー

- 「もりぐらし」として、「食べる」「遊ぶ」「泊まる」の3要素で、別荘地の新たな誘客を促進。
- 今後、「森ではたらく」「森でいやす」「森でまなぶ」等の拡充が計画中。

「森に泊まる」
クラスベッツ蓼科



「森と遊ぶ」
フォレストアドベンチャー蓼科



「森で食べる」
グラマラスダイニング蓼科



- 日中は住宅展示場、夜は宿泊施設とし、住宅需要を開拓
- 全4棟(地元工務店が参画)
- 税込29,700円/棟～(3名利用・食事無)
- 樹林を活用して、フランス発の自然共生型アウトドアパーク「フォレストアドベンチャー」を開設。
- 「アドベンチャーコース」(4サイト)、「キャンピーコース」(2サイト)、「キッズコース」(2サイト)を整備
- 税込1,900円～4,900円/人
- 豊かな自然の中でグランピングを楽しめるレストランを開設。
- 「THE CAMP」(グランピングサイト・宿泊可)、「THE DECK/SELF DECK」(プライベートデッキ)、「THE ROOF」(長野県産カラマツLVLを使用した大屋根)
- 施設使用料 2,000～60,000円/施設

実績

- クラスベッツ宿泊数 : 2018年度450件、2019年度470件
 - フォレストアドベンチャー蓼科入場者数 : 2018年度12,500人
 - グラマラスダイニング蓼科売上 : 2019年度3,800万円(4月～11月)
- 3施設によりタウン全体で首都圏等からの集客を底上げし、別荘の販売実績にも繋がっている。

IV. 受入地域の事例（森林所有者等による新たな利用開拓）

12 新たな森林と共生する別荘地づくりと、森と暮らすライフスタイル「もりぐらし」を提案「東急リゾートタウン蓼科」（長野県茅野市）

◎ 特徴1 / 森林整備を核とした活動を事業として成立させた

- 林業経営体としての認定を受け、森林の現況調査から中長期の保全施業計画の策定を行い、地元の森林組合に施業を委託して間伐等の森林整備を行った。さらに、2020年度からは隣接する別荘地にも森林経営計画を拡大し、一体的な整備を進めている。



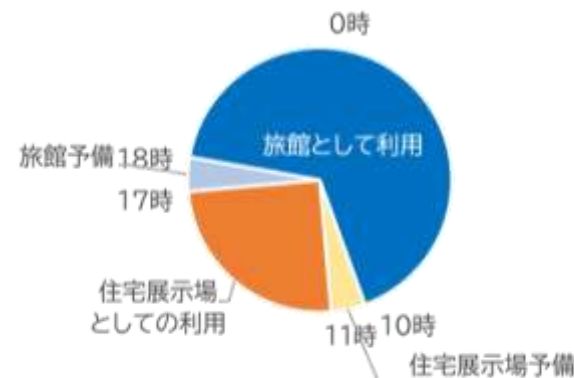
- リゾートタウン内のボイラーをバイオマスボイラーに入れ替え、森林整備で発生した間伐材を燃料として活用。CO2抑制の効果とともに、燃料費低減が図れるため投資を9年程度で回収できる予定。
- 「まもる」「つかう」「つなぐ」という一連の循環的なサイクルを「もりぐらし」というコンセプトに落とし込んできた。CSR(企業の社会的責任)としてのみ行うのではなく、CSV(共有価値の創造)の概念を重視し事業として成立させてきた点が特徴である。



◎ 特徴2 / 宿泊施設×住宅展示場という新たなビジネスモデル

- クラスベッソ蓼科は、住宅メーカーが建設した建物を、日中は住宅展示場として開放し、夜は宿泊施設として貸し出す、新しい形での別荘体験ができる場である。
- 外壁の一部にもりぐらしエリアの間伐作業で発生したカラマツ材を利用している。
- また、内装は東急ハンズがプロデュースしており、環境に配慮し、かつ、おしゃれで快適な空間が演出されている。

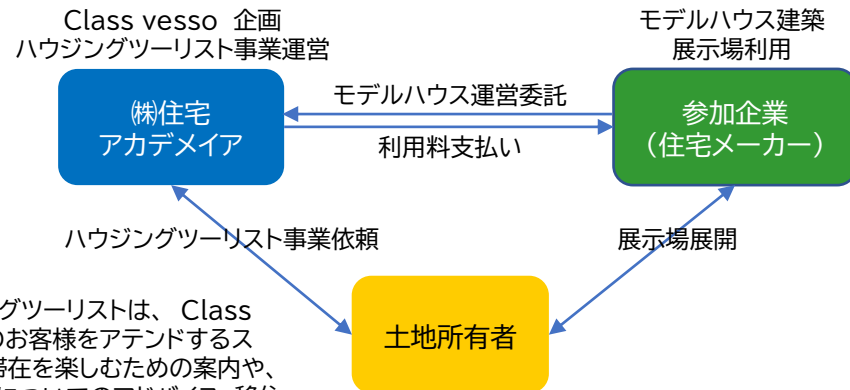
● 昼は住宅展示場、夜は旅館として利用



● 環境に配慮・おしゃれ・快適な空間



● 土地所有者・住宅メーカー・企画会社の3社連携



※ ハウジングツーリストは、Class vessoのお客様をアテンドするスタッフ。滞在を楽しむための案内や、家づくりについてのアドバイス、移住のサポート等を親身になってお手伝いする。

13 早期離職対策等に寄与する社員研修等の実施 「TDKラムダ」（長野県信濃町）

所在地：東京都中央区日本橋二丁目5番1号
 実施者：TDKラムダ株式会社
 連絡先：（TEL）03-6778-1111
 URL：https://www.jp.lambda.tdk.com/ja/index.html

- 社有林のある長野県信濃町で、CSR事業として森林整備を開始。
- 都市で行っていた「社員研修」等を信濃町での開催に切り替えることで、早期離職率が12%から1%に低下した。
- 「森林の里親協定」や「企業のふるさとづくり協定」の締結等を通じて、社有林の整備等を進めるほか、企業版ふるさと納税制度による信濃町への協賛、信濃町特産のとうもろこしやブルーベリー等の農産物の社内販売等、関わりを多様化。

● 取組の経緯

- 長野県信濃町に5.1haの社有林があったが、長年遊休資産となっていた。
- 2007年12月 社有林の有効活用を目指し、信濃町と「森林の里親協定」を締結。これに基づき翌年から信濃町の森林整備のための寄付を開始。（現在は企業版ふるさと納税制度に切り替え）。また地元NPOへ委託し社有林の生物多様性の森づくりを開始。
- 2008年4月 社員と森林との接点を増やす方策として、従来は東京で行っていた新入社員研修を信濃町での開催に切り替え。順次、研修プログラムを2年目・3年目・エルダー研修等に多様化。
- 2009年12月 さらに関係性を多様化していくため、信濃町と山村再生支援センターとの3社で「企業のふるさとづくり協定」締結。地域交流や特産品の社内販売等を展開。

● 具体的なプログラム・メニュー

- 入社1年目（4月・10月）、2年目（6月）、3年目（9月）の研修に加えて、新入社員の指導を担当する先輩職員への研修（エルダー研修）を実施。全社員の27%が信濃町での研修を体験済みである（2019年秋時点）。
- 研修の内容は、従来の社員研修でも行っていた講義のほか、社有林の森林整備や森林セラピー体験、登山や座禅等の信濃町ならではのプログラムを取り入れている。

森林を生かした社員研修の様子

森林整備・ものづくり等の共同作業体験



新入社員のグループごとに、森林整備やものづくり等を行う。共同作業体験を通して、チームビルディング等の効果を期待。

森林セラピー体験



自分を見つめ直す・ストレス発散法を身に付ける効果を期待。

座禅



コミュニケーションキャンプ



登山や室内ワークを通じたチームビルディングで同期の絆を深める。

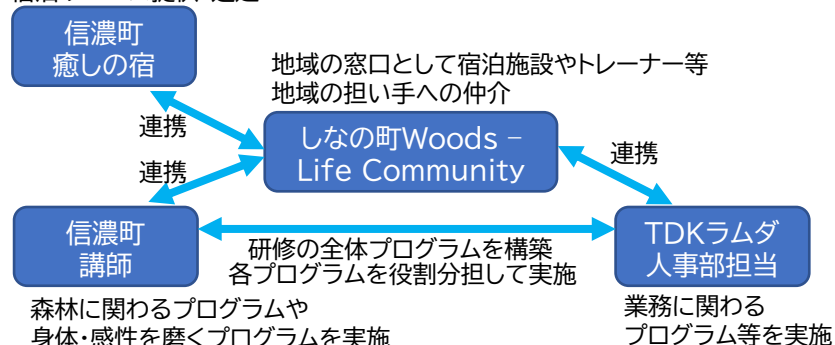
描画シェアリング



森林体験後に自己の問題の相対化・極小化を図る。

● 実施体制・役割分担

宿泊サービス提供・送迎



● 実績（2019年実績）

- 早期離職率が12%から1%に低下
- 社員研修年間延べ28日（2019年）
- 寄付額：年間20～30万円
- 社内販売：トウモロコシ208本、ブルーベリー36

V. 企業等の取組事例（健康分野）

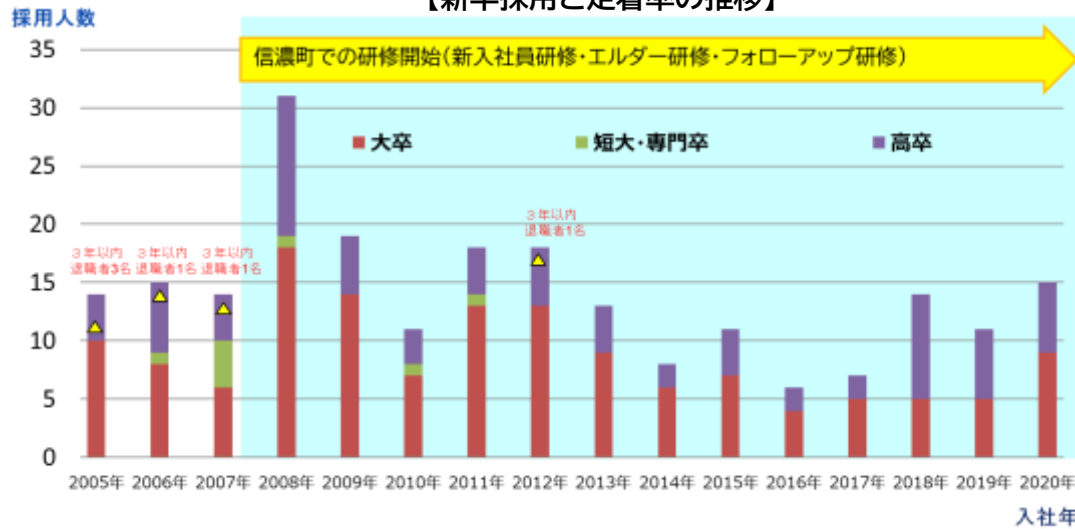
13 早期離職対策等に寄与する社員研修等の実施「TDKラムダ」（長野県信濃町）

◎ 特徴1 / 森林での研修による早期離職対策

- 都市で行っていた社員研修等を信濃町での開催に切り替えて以降、早期離職率（新卒 3年以内退職者）が12%から1%に改善した。

	2005-2007年	2008-2016年
新卒採用者	43	137
3年以内退職者	5	1
	12%	1%

【新卒採用と定着率の推移】



【信濃町と連携して実施する新入社員研修プログラム(抜粋)】

プログラム	指導者
講義「森の力&メンタルヘルス講座」	信濃町メディカルトレーナー
森林セラピー(導入編・リラックス編)	信濃町メディカルトレーナー
描画シェアリング	信濃町メディカルトレーナー
コミュニケーションキャンプ&チームビルディング	信濃町メディカルトレーナー
ものづくり体験	信濃町メディカルトレーナー (コミュニケーションキャンプ指導者)
座禅体験(雲龍寺)	信濃町(住職)
メンタルヘルス アロマ講座&描画シェアリング	信濃町メディカルトレーナー
ストレス講座&ヨガ講座	信濃町メディカルトレーナー

◎ 特徴2 / 企業内スタッフと地域の指導者が連携し研修効果を向上

- 社員研修の専門性を持つ自社スタッフと、子ども向けのコミュニケーションキャンプ等を行ってきた地域の自然体験活動の指導者等が連携することで、チームビルディングにつながるようなカリキュラムとなっている。
- 特に、1年目・2年目・3年目の各研修で担当する現地の「森林メディカルトレーナー」を固定し、継続的にフォローができる体制を構築している。
⇒ 縦(上司・部下)、横(同僚)の関係性に加えて、トレーナーによる「ななめ」の関係性から新入社員を見守ることで、新入社員に次の研修まで頑張る気持ちが生まれる。

研修の各メニューと期待される効果

森林セラピー・アロマ等



ストレス
発散方法を
身に付ける

描画セラピー・座禅等



自己の問題
を相対化
・極小化する

ものづくり研修



* 設計と製図 *



* 材木加工 *



* 組立加工 *

QCD(品質・価格・納期)、チームワーク、役割分担、目標共有、完遂力を学ぶという狙いのもと、共同での制作作業を進めていく。

* ベンチ完成 *



一人ではできないことが皆でやればできるという体験

さらに、社員研修全体を通じ、同期に相談できる関係性を構築していく。

所在地：東京都台東区台東1-5-1
 実施者：トッパングループ健康保険組合
 連絡先：（TEL）03-3835-6709（ヘルスケアT）
 （mail）healthcare@toppankenpo.or.jp
 URL：http://www.toppankenpo.or.jp/foresttherapy/

14 加入者向けの情報提供・福利厚生補助・社員研修の実施 「トッパングループ健康保険組合」(長野県信濃町等)

- グループ全体で「身体・食・心」という3つの視点から健康経営に取り組んでいたが、新たに「心」の取組に関して、「森林セラピー」に着目。
- しのの町Wood-Life Communityと「癒しの森協定」を締結し、信濃町の「癒しの森の宿」を契約保養施設に追加するとともに、全国各地の森林セラピー基地等で社員研修等を実施している。

取組の経緯

- ▶ 従業員の健康づくりを促進することで生産性の向上や組織の活性化を図るグループの健康経営に即し、トッパングループ健康保険組合では「身体・食・心」のバランスを大切にしたい取組を推進している。
- ▶ 健康保険組合東京連合会が開催した「健康講座」(東京都内・長野県信濃町)に参加して、「森林セラピー」に着目。
- ▶ 2018年度 信濃町で体験会を開催し、森の癒し効果についての講座やアロマセラピー、バランスの取れた食事などを実施。続いて、首都圏でトライアル事業と報告会を実施。
- ▶ 2019年 しのの町Wood-Life Communityと「癒しの森協定」を締結。組合員への普及啓発活動・福利厚生補助を行うとともに、森林セラピーを活用した各種研修会の開催や、母体企業の経営層の視察会等を実施。

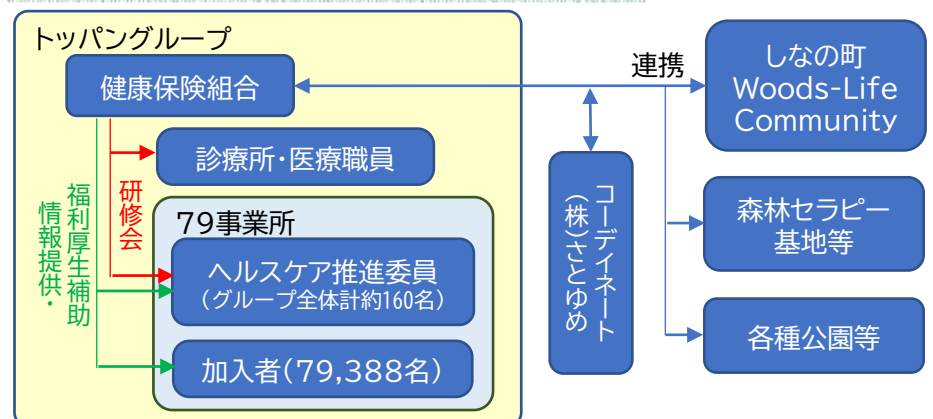
具体的なプログラム・メニュー

加入者等への「森林セラピー」の情報提供
 (パンフレット作成) (ホームページ・広報誌)

契約保養施設への追加
 (信濃町認定「癒しの森の宿」)

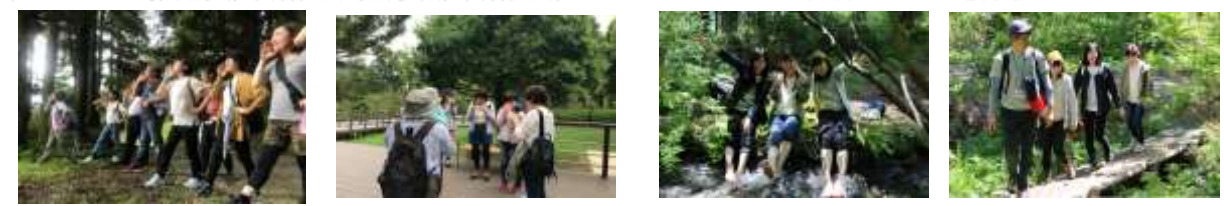


実施体制・役割分担



産業保健スタッフ向けの「森林セラピー」研修会
 (ヘルスケア推進委員研修会・医療職員研修会)

グループ各社関係者向け
 「森林セラピー」体験会



実績

- 福利厚生補助を活用した「癒しの森の宿」利用者数:104人(2019年度)
- 社員研修等による「森林セラピー」体験者:325人(2018・2019年度計)

V. 企業等の取組事例（健康分野）

14 加入者向けの情報提供・福利厚生補助・社員研修の実施 トッパングループ健康保険組合（活動地：長野県信濃町等）

◎ 特徴1 / 心の健康づくりに森林セラピーを位置付け

- トッパングループ健康保険組合では、心身ともに健康になるメソッドとして、「身体(Physical)」、「食(Meal)」、「心(Mind)」の3つのバランスを整えていく、PMM活動を推進している。
- 一方、社員の約5%がメンタルの不調を起因とした症状で医療機関を受診している状況にあった。明らかなメンタルヘルス不調者は氷山の一角であり、健康経営を促進する観点で「心の健康づくり」の対策が重要課題となっていた。
- こうした中で、「心(Mind)」の領域の取組として、「森林セラピー事業」の検討に着手した。2018年度には長野県信濃町を中核に、首都圏の東京都奥多摩町・神奈川県山北町・神奈川県大井町・茨城県大子町でトライアル事業と報告会を実施し、2019年度から本格的に事業展開を行った。

◎ 特徴2 / 産業保健スタッフ等向けの研修会

（ヘルスケア推進委員 研修会）

- 各事業所に「ヘルスケア推進委員」を配置（グループ全体で約160名）。
- 健康保険組合では、毎年ヘルスケア推進委員に対する研修会を実施。他事業所で実施している取組事例（栄養・運動・がん啓発等）を共有・体感する場としている。
- 2019年度のヘルスケア推進委員向けの研修は、PMM活動の一環として心身ともに健康になるメソッドである森林セラピーをテーマに開催した。



首都圏・東日本地区 （東京都渋谷区）



クロモジの香り袋作成



関西・中部地区 （大阪府吹田市）



森でヨガ体験



九州・中四国地区 （福岡県篠栗町）



ハンモックセラピー



（医療職員 研修）

- 全国52カ所に診療所を設置
- 疾病の早期発見、健康の保持・増進を目的に社員の「元気」をサポート
- 毎年全国医療職員のスキルアップ、情報共有を目的に研修会を開催。2019年度は神奈川県大井町のBIOTOP!Aにて森林セラピーをテーマにした研修を開催。



森林セラピー



竹林での瞑想体験



未病弁当

15 「クアオルト健康ウォーキング」を活用した企業の健康経営促進 ・ヘルスケア産業創出「太陽生命保険」(山形県上山市等)

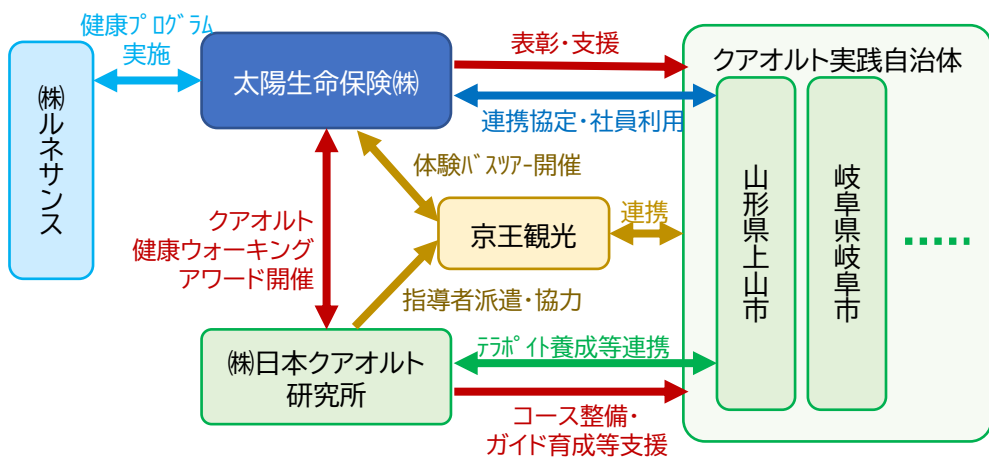
所在地：東京都中央区日本橋2-7-1
 実施者：太陽生命保険株式会社
 連絡先：(TEL) 03-3272-6211 (代表)
 URL：https://www.taiyo-seimei.co.jp/index.html

- 健康寿命の延伸という社会的課題の解決を目的とした事業の一環として、多角的に「クアオルト」の普及に取り組む。
- クアオルトの普及・活用のため、全国での推進策として「アワード」の開催、生活習慣病リスクの高い従業員向けに「宿泊型新保健指導」を導入して健康改善を図るとともに、認知症予防保険の加入者向けに、交付する給付金を活用した「体験バスツアー」等を実施。
- クアオルトを活用した健康づくりに関し、2016年に山形県上山市と、2020年に岐阜県岐阜市と、それぞれ連携協定を締結。

取組の経緯

- 2016年6月 健康寿命の延伸という社会的課題に対する取組として、従業員・お客様・社会を元気にする「太陽の元気プロジェクト」を始動。
- 2016年10月 クアオルトを活用した健康づくりに取り組む山形県上山市と包括的連携協定締結。
- 2016年11月 日本クアオルト研究所へ協賛し、「クアオルト健康ウォーキングアワード」を開催。(受賞発表は翌年4月)以降、毎年開催している。
- 2016年 生命保険会社ではじめて、宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)プログラムを導入。
- 2018年 従業員へのクアオルト体験バスツアー・健康プログラムを開始。
- 2020年2月 2018年のアワードで優秀賞を受賞した岐阜県岐阜市と健康づくりに関する連携協定を締結。

実施体制



具体的なプログラム・メニュー

【社会を元気に】 (次頁「特徴1」参照)
クアオルト健康ウォーキングアワード

【お客様を元気に】 (次頁「特徴2」参照)
クアオルト体験バスツアー

【従業員を元気に】

健康プログラム(宿泊型新保健指導スマート・ライフ・ステイ)

- 脂質・血圧・血糖値・腹囲等に基づき、生活習慣病リスクが高い職員等を指名。
- クアオルト健康ウォーキング参加後、体重や歩数を6か月間管理し生活習慣病を予防。
- 2020年度は3か月間の簡易型プログラムを試行の予定。
- 目標達成に向け、手紙や電話で6か月間サポートを実施

1日目

- 体組成検査、腹囲・血圧測定
- グループワーク(行動目標づくり)
- 健康講話
- セルフモニタリングの説明
- 温泉入浴・散策
- 地産地消・低カロリー・バランスの取れた食事
- 管理栄養士のアドバイス
- ヨガ

2日目

- セルフモニタリングによる体重・腹囲・血圧測定
- 早朝ウォーキング
- クアオルト健康ウォーキング
- ヘルシーランチ実習
- 振り返り・行動目標見直し

実績

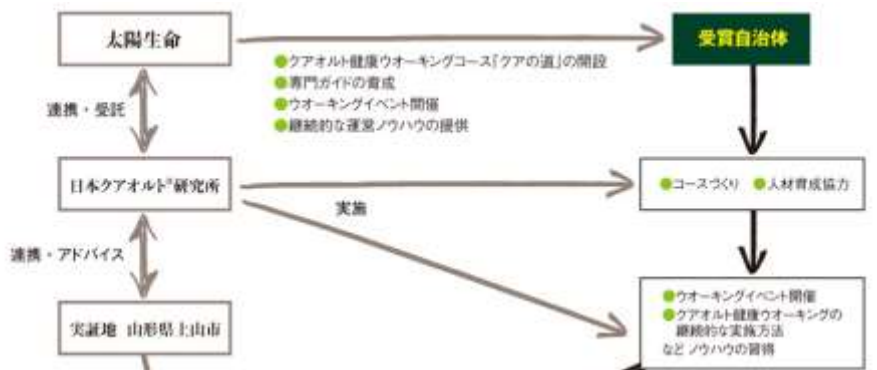
- クアオルト健康ウォーキングアワード：2016年度より11地区選定
- 宿泊型新保健指導(スマート・ライフ・ステイ)：
2017年度/7回・72名、2018年度9回79名、2019年度6回41名
- 社員のクアオルト体験：2018～19年度 6地区・9回・300名参加

V. 企業等の取組事例（健康分野）

15 「クアオルト健康ウォーキング」を活用した企業の健康経営・ヘルスケア産業創出「太陽生命保険」（山形県上山市等）

● 特徴1 / アワードを通じた地域支援

- クアオルト健康ウォーキング推進施策の一環として、日本クアオルト研究所が主催するアワードに協賛。
- 地域住民の健康寿命延伸に取り組む自治体で、官民連携でクアオルト健康ウォーキングに取り組む意思のある自治体を公募。
- 受賞した自治体へは、ウォーキングコース「クアの道」の整備やガイドの育成、運営ノウハウの支援を行っている。



《受賞自治体》

- 【2016年】
岐阜県飛騨市
兵庫県多可町
岡山県新見市
- 【2017年】
静岡県小山町
宮崎県延岡市
- 【2018年】
三重県志摩市
岐阜県岐阜市
埼玉県横瀬町
- 【2019年】
岐阜県関市
愛知県岡崎市
滋賀県高島市

● 特徴2 / 旅行会社と連携したクアオルトツアーの提供

- 京王観光(株)と連携し、全国12か所でのクアオルト®健康ウォーキング体験ツアーを提供。
- 「認知症予防保険」の契約者に対して予防に向けたサービスとして給付金を交付しており、その使途として本ツアーを利用できる。
- 従業員に対して実施するクアオルト体験バスツアーも、(株)京王観光が企画・実施している。

【調査担当】

宍戸 容代 ((一社)スクナヒコナ 副代表理事、
島根県中山間地域研究センター 客員研究員)〈事例1~8、11~15〉
平野 悠一郎 ((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 主任研究員)〈事例9・10〉
木俣 知大 ((公社)国土緑化推進機構 政策企画課長)〈全事例〉

令和元年度 林野庁委託事業
「森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査検討事業」
報告書

(参考資料)「森林サービス産業」先進事例集

令和2年3月
公益社団法人国土緑化推進機構